

≡ 三重交通グループホールディングス

CSR REPORT 2019



Mie Kotsu Group

 三重交通グループホールディングス株式会社



Contents

トップメッセージ	3
三重交通グループについて	5
会社概要	7
CSRへの考え方/グループ基本理念/経営指針	8
三重交通グループ中期経営計画(2019 - 2022)	9
トピックス 名古屋三交ビル2020年4月開業予定	13
トピックス 新交通サービスに向けての取組み	15
財務データ	17
コーポレート・ガバナンス	18
安全・安心への取組み	21
バス事業の取組み	22
その他バス事業の取組み	25
その他事業の取組み	27
環境への取組み	28
バス事業の取組み	29
その他事業の取組み	30
社会への取組み	32
お客様のために	33
株主・投資家の皆様のために	36
従業員のために	37
地域のために	38

編集方針

○報告内容範囲と主な対象

当社および当社グループが、企業の社会的責任として取り組んでいる企業活動、社会活動、環境保全活動を中心に掲載し、当社グループ事業のステークホルダーの皆様がより一層のご理解と親しみを持って頂けることを目的とします。

○数値データ 集計対象期間 2018年4月1日～2019年3月31日

数値データについては、三重交通グループ主要会社または一部の会社の合計となります。

○対象範囲

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)の取組みを基本として、必要に応じて2018年度以前・2019年度の活動についても一部紹介しています。

○作成指針

以下のガイドライン等を参考にしました。

・環境省「環境報告ガイドライン2018年度版」

・「GRI (Global Reporting Initiative) サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」

※可能な限り収集データには精度を求めましたが、一部推計として集計しているものがあります。

※各取組みについては実施の各会社名を記載しています。

○内容へのご意見・お問い合わせについて

当社では、ホームページの「お問い合わせ」ページ等で広くお客様の声をお待ちしています。

CSRに関する当社の取組みや本レポートへのご意見・ご感想を頂ければ幸いです。お寄せいただきましたお客様の声は、今後の施策の参考にいたします。

お問い合わせページ

<https://holdings.sanco.co.jp/contact/>

(お問い合わせ先)

三重交通グループホールディングス株式会社

〒514-0032 三重県津市中央1番1号

TEL.059-213-0351



■ トップメッセージ

三重交通グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

小倉 敏秀

持 続的な成長・発展を実現するため、 グループの総合力を結集した 経営を推進します。

平素より三重交通グループの事業に対し、格別のご理解を賜り誠にありがとうございます。

当社は、三重交通グループを統括する純粋持株会社として、グループの基本戦略を計画・遂行するとともに、各社・各事業の経営活動を推進・支援しております。三重交通ブランドと信用力を基に、運輸、不動産、流通、レジャー・サービスの異なる4つの部門が連携し、相互に補完しながらリスクに強い体制を構築して、地域に密着した総合生活産業を営む企業グループとして持続的な成長を続けていくことを目指しています。また、お客様や地域社会のお役に立ち、信頼を

いただくことで企業グループが存続できると考えており、今後も引き続き「安全・安心・安定・快適なサービス」を提供してまいります。

当社グループの根幹は運輸業であり、長年にわたり地元でバス事業を営み、地域住民の足として公共的役割を果たしてきた知名度と信用力が最大の財産です。これが、不動産、流通、レジャー・サービス各事業の信頼の源泉となることで、事業規模を拡大してまいりました。この信頼の源泉を維持するものが「安全」であり、当社グループは常日頃から安全に対して絶えず高い意識を持って取り組み、組織全体で緊張感を高め、模範となる体制の堅持に努めています。

～SDGs～

SDGs(Sustainable Development Goals)は、国連が2015年にまとめた持続可能な開発目標のことであり、飢餓の根絶や地球温暖化対策など、2030年までに世界が達成すべき17の目標、169のターゲット(具体的な行動目標)で構成されています。世界の優良企業はもとより、日本の企業もSDGsに対する関心が高まり、積極的な取り組みを進めているところが増えつつあります。SDGsは広い意味でのCSRであり、企業の枠組みを超えて包括的に取り組むことによって企業間での連携が深まり、新たなビジネスのチャンスにつながることもあるため、企業にとっても長期的にメリットがあります。

当社グループの取り組みである「環境エネルギー事業」もその一つであり、再生可能エネルギーの普及促進に貢献すべく、2019年9月末現在合計出力約88メガワットのメガソーラー発電所を稼働させています。また、「津メガソーラー杜の街」は、地域に充分配慮しているなど模範となる事例として、三重県の「優良事例10施設」にも取り上げられています。2023年3月期には合計で約112メガワットの規模になる予定です。その他にも、御在所岳での植樹活動や、ハイブリッドバスの導入など環境に配慮した企業活動を推進しています。

各事業にわたり、高齢者に優しいサービスやバリアフリーを拡充するとともに、増加する訪日外国人に向けての多言語化も順次行っています。また、運輸部門では、三重交通がICT技術を活用したバス位置情報検索システムの充実とサービスエリア拡大を進めているほか、名阪近鉄バスでは岐阜県大垣市のスマートシティ実現に向けた実証実験に参画するなど、お客様の利便性向上とバスの利用促進に向け、SDGsにもある「住み続けられるまちづくりを」目指して取り組んでいます。さらに、MaaSや、自動運転の実証実験への参画など将来に向けた取り組みも行っています。

今後も持続可能な経営を志向し、企業の社会的責任として、環境、社会、経済の諸問題に取り組んでいく所存です。

～中期経営計画～

さて、当社グループは、本年5月に2019年度(令和元年度)を初年度とする4カ年の新・中期経営計画を策定いたしました。5つの基本方針「安全・安心・安定・快適なサービスの提供」、「成長分野の深耕と創造」、「持続的な安定経営への努力」、「市場の変化に対応した事業モデルの構築」、「ICT・AI等の有効活用」のもと重点施策に取り組み、最終年度の2022年度(令和4年度)には、営業収益1,150億円、営業利益83億円、純利益53億円を目指す計画としています。これまでの計画で推進してきた注力分野をさらに強化・拡充し、グループの総合力を結集し、「新たな時代に進み続ける ～Keep on Going『令和』～」をテーマに掲げ、グループの総合力を結集した新しい経営計画といたしました。

基本方針をもとに取り組む5つの重点施策は、

- ①「安全・安心・安定・快適」の追求
 - ②東京・名古屋・関西での事業展開
 - ③三重エリアでの事業深化
 - ④「環境エネルギー事業」と「三交イン事業」の推進
 - ⑤ICT・AI等の活用推進
- です。

「東京・名古屋・関西での事業展開」においては、名古屋エリアにある建設中の「名古屋三交ビル」を2020年4月に開業予定であり、関西圏でも2019年9月に京都駅新幹線口正面の好立地に「三交イン京都八条口」をオープンし、更なる収益拡大を目指しています。2025年大阪・関西万博開催が決定し、統合型リゾート(IR)の誘致も期待される大阪エリアにおいても新たな事業展開を進めたいと考えています。

(※本紙「CSRレポート2019 中期経営計画9～12ページ参照」)

当社グループは、引き続き、皆様と協力して地域活性化の取り組みを進めてまいりたいと考えていますので、今後も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 三重交通グループは、安全・安心・安定・快適なサービス

運輸業

運輸業は、グループ6社からなり、三重交通グループの基幹事業の一つとして、日本でも有数の規模を誇るバス事業を中心に展開しています。地域社会の足として、安全対策の推進、多様化する顧客ニーズへの対応を行い、さらなるお客様満足度向上を目指しています。



三重交通株式会社



三重県内を中心に、地域の公共交通として乗合・貸切バス事業を展開しています。

さらには、名古屋・東京・大阪・京都への都市間高速バスや、中部国際空港行のリムジンバスを運行しています。

名阪近鉄バス株式会社



愛知・岐阜・三重県の東海地方において、基幹事業の貸切バス事業をはじめ、岐阜県西濃地域をつなぐ乗合バスやコミュニティバス、名古屋から京都・大阪・USJ、中部国際空港から京都を結ぶ高速バスを運行しています。

三交伊勢志摩交通株式会社



三重県伊勢地区の一部乗合路線と「高速鳥羽大宮線」を運行するほか、貸切バス事業や三重交通からの乗合・貸切運行受託事業を行っています。

三重急行自動車株式会社



貸切バス事業や三重交通からの貸切運行受託事業のほか、「大杉線」(松阪駅前～シャープ正門前)を三重交通と共同運行しています。

八風バス株式会社



三重県の桑名駅からいなべ市大安町を結ぶ乗合バスの運行や、コミュニティバスの運行受託を行っています。

株式会社三交タクシー



三重県桑名市から伊勢市にかけて4つの営業所を持ち、観光タクシーのほか、企業からの依頼による送迎、買物代行などにもご利用いただいています。

不動産業

不動産業は、グループ3社からなり、三重交通グループの基幹事業の一つとして、多彩なニーズを捉えた「まちづくり」の一翼を担っています。環境エネルギー事業の「メガソーラー」にも注力し、安心・快適な都市空間・住空間を拓いています。



三交不動産株式会社



中部圏、首都圏、関西圏において、オフィスビルや商業施設、都心型ホテルなどを開発する施設賃貸事業や分譲マンションブランド「Praise(プレイズ)」を展開しています。また、地元中部圏においては、街並みをデザインする分譲戸建ブランド「Precia(プレシア)」、「三交ホーム」ブランドで親しまれている注文住宅事業、リフォーム事業、仲介事業、サービス付き高齢者向け住宅事業に加え、近年では環境に優しいクリーンエネルギーのメガソーラー発電所を開発するなど多岐にわたる事業を展開している総合不動産会社です。



株式会社三交コミュニティ



三重県、愛知県を中心に、分譲マンションやビル・商業施設などの総合管理事業、ホテルの客室清掃事業を行っています。また、建物設備やマンションの大規模修繕工事、庭木・植栽の剪定など、地域に根ざした事業を展開しています。

株式会社三交不動産鑑定所

中部圏を中心に不動産鑑定と補償コンサルタントを両輪とした業務を展開しています。長年の実績や三重交通グループの一員としての信用をベースに行政関係、企業から個人のお客様まで、クライアントのニーズにあった質の高いスピーディーな評価でおこたえします。

の提供を目指します。

流通業

流通業は、グループ4社からなり、石油製品販売事業、生活用品販売事業でのフランチャイズ展開、自動車販売事業を行っています。暮らしを支える商品・サービスを提供し、快適で創造性豊かな暮らしの実現をサポートしています。



三重交通商事株式会社



三重県内一円と名古屋において、サービスステーションを展開して石油製品や、自家用車などを販売しています。また、整備工場での自動車整備や液化石油ガスの供給・販売などの事業も展開しています。

株式会社三交シーエルトゥー



三重県のイオンモール桑名内にある「東急ハンズ桑名店」と、名古屋市西区の商業施設mozoワンダーシティ内にある「東急ハンズ名古屋モゾワンダーシティ店」(2018年9月オープン)の2店舗をフランチャイズにより展開しています。

株式会社三交クリエイティブ・ライフ



名古屋市内のジェイアール名古屋タカシマヤ5F～11Fにある「東急ハンズ名古屋店」と、栄の「東急ハンズANNEX店」の2店舗をフランチャイズにより展開しています。

三重いすゞ自動車株式会社



三重県内一円に営業拠点を持ついすゞ自動車総販売店です。トラック・バスなどの新車販売業、中古車販売業、用品の販売・製作、修理・加工及び車体製作、その他付帯事業を展開しています。

レジャー・サービス業

レジャー・サービス業は、グループ11社からなり、ホテル・旅館・ロープウェイ・ドライブイン・ゴルフ場等を運営しています。国内旅行をはじめとするレジャーやサービスを提供し、うるおいのある時間づくりをお手伝いしています。



株式会社三交イン



ビジネスホテルを営む三交インは、東京・静岡・愛知・三重・大阪・京都に全14ホテルを展開し、2020年4月に名古屋駅桜通に「三交インGrande名古屋(仮称)」を開業予定です。

御在所ロープウェイ株式会社



鈴鹿国定公園の主峰御在所岳と湯の山温泉を結ぶ全長2,161m、高低差780mの「御在所ロープウェイ」を運営しています。2018年7月にリニューアルを行い、御在所岳の優れた自然環境の魅力を今まで以上に楽しみたいいただけます。

鳥羽シーサイドホテル株式会社



2016年に指定70周年を迎えた伊勢志摩国立公園内に位置し、鳥羽湾を一望できるリゾートホテル「鳥羽シーサイドホテル」を運営しています。

株式会社三重カンツリークラブ



御在所岳山麓の湯の山温泉から近く、新名神高速道路菟野IC下車約3分のところに位置する本格的リゾートコース「三重カンツリークラブ」(18ホール・パー72)を運営しています。

三交興業株式会社

名阪国道・伊勢自動車道・東名阪自動車道の分岐点である関JCT近くに「名阪関ドライブイン」、名阪国道大内IC沿いに「名阪上野ドライブイン」を運営しています。

ミドリサービス株式会社

主に岐阜県西濃地域にて、造園土木業、警備業・生活支援業を展開しています。

株式会社松阪カントリークラブ

1978年にオープン、松阪市街地に隣接した丘陵地に位置する「松阪カントリークラブ」(18ホール・パー72)を運営しています。

三交ウェルフェア株式会社

三重県桑名市にあるサービス付き高齢者向け住宅「ウェルフェア桑名」の運営及び介護事業を展開しています。

名阪近鉄旅行株式会社

愛知県、岐阜県、三重県での企画旅行商品「カントリーツアー」の販売をはじめ、海外旅行、団体旅行など楽しい旅をご提案しています。

三重県観光開発株式会社

伊勢志摩スカイラインの有料道路や売店をはじめ、伊勢自動車道の安濃SA上り線、嬉野PA下り線、東名阪自動車道の亀山PA上下線、大山田PA下り線の売店等を運営しています。

株式会社三交ドライビングスクール

三重県四日市市四日市自動車学校では、大型二種(バス)免許をはじめ、大型、普通、二輪などすべての運転免許が取得可能です。また、名古屋市区の名四自動車学校も運営しています。

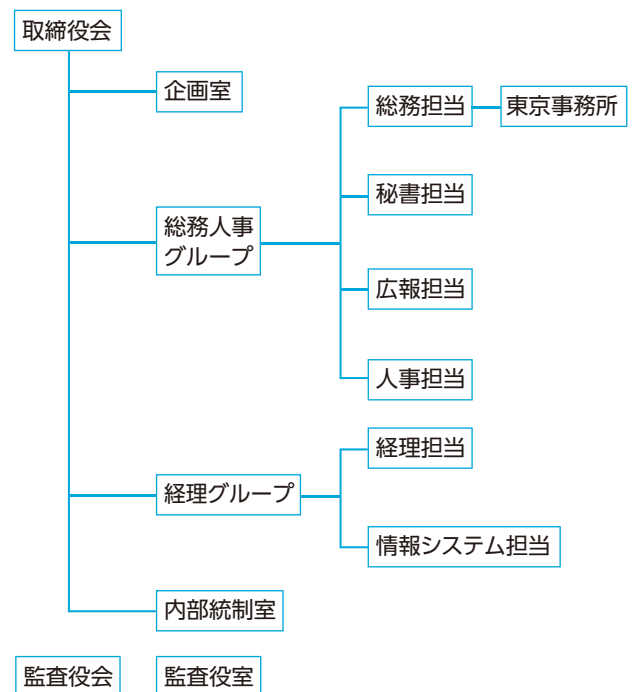
■ 会社概要 2019年6月14日現在

会社名	三重交通グループホールディングス株式会社 (英文名 Mie Kotsu Group Holdings, Inc.)	発行済株式総数	107,301,583株
設立年月日	2006年(平成18年)10月2日	事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
所在地	本社 〒514-0032 三重県津市中央1番1号 東京事務所 〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目2番5号 京橋TDビル3階	従業員数(2019年3月31日現在)	38名(グループ従業員数 5,921名)
資本金	3,000,000,000円	上場取引所	東京証券取引所市場第1部、 名古屋証券取引所市場第1部 (証券コード:3232)
		事業内容	株式所有によるグループ連結経営の立案と実行
		グループ事業	運輸業／不動産業／流通業／レジャー・サービス業
		グループ会社	25社(三重交通グループホールディングスを含む)

■ 役員紹介

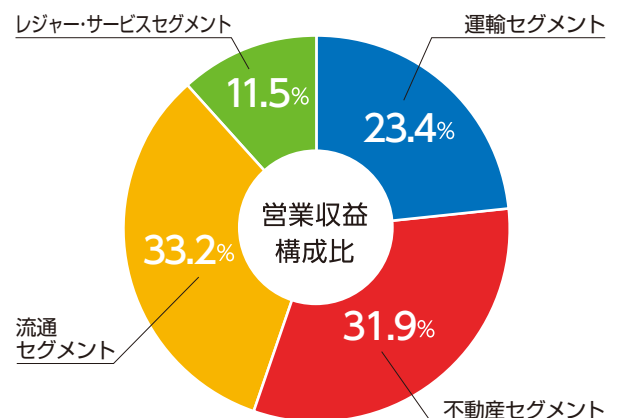
代表取締役会長	岡本直之
代表取締役社長	小倉敏秀
代表取締役副社長	竹谷賢一
取締役	中川伸也
	柴田俊也
	川村則彰
	藤井林学
	高松田健弘
	大川人久
	安藤藤隆
	武蔵本太郎
社外取締役	小内林哲
	楠井淳
監査役(常勤)	雲井文
社外監査役	森口林
	小若井
	若井敬

■ 組織図



■ 連結業績 (2018年4月1日～2019年3月31日)

営業収益	106,244百万円	(前期比1.7%増)
営業利益	7,139百万円	(前期比14.3%増)
経常利益	7,049百万円	(前期比9.6%増)
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,551百万円	(前期比9.1%増)



CSRへの考え方/グループ基本理念/経営指針

三重交通グループのCSRへの考え方

三重交通グループは、経営指針に基づき、お客さまや地域社会の皆さまに安全・安心・安定・快適なサービスを提供するとともに、法令・企業倫理の遵守を重視した誠意ある経営を行います。

また、環境問題の重要性を認識し、企業活動による環境負荷の最小化に努め、持続的発展が可能な社会づくりに貢献します。

これらの取り組みを通じて、企業の社会的責任を果たし、あらゆるステークホルダーの期待にお応えできるよう誠実に行動してまいります。

SDGsのアプローチ

2015年に国連サミットで採択されました SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を受けて、当社グループとして社会的課題の解決に向けて取り組み、地域社会の持続可能な発展に貢献していきます。

SDGsとは?



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGs(エスディージーズ)とは、世界中のすべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくるために、国連サミットが決めた国際社会共通の目標のことです。

2016年から2030年までの15年間で達成すべく17の目標と、169の具体的な行動目標で構成されています。

貧困や不平等、気候変動などに対処しながら「誰一人取り残さない」社会をめざして、世界中でSDGsへの取り組みが始まっています。

グループ基本理念

三重交通グループは、お客さまの豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献します

グループ経営指針

① お客さまのよろこびの追求

“お客さまのよろこび”を追求し、新たな価値を提供します

② 地域社会への貢献

価値ある事業を展開し、地域の発展に貢献します

③ 絶えざる自己革新

過去にとらわれず、常に未来に挑戦します

④ 誠実な企業活動

誠実な企業活動を行い、よき企業市民としての信頼を深めます

⑤ グループ総合力の発揮

互いに協力・連携し、グループの総合力を発揮します

⑥ いきいきとした企業風土

いきいきと働ける環境を築き上げ、社員の活力を高めます

三重交通グループ中期経営計画（2019 - 2022）

当社グループは、2019年度を初年度とする

4カ年の「三重交通グループ中期経営計画（2019-2022）」（以下、「本計画」）を策定しました。

前回計画（2016-2018）の振り返り

2016年度を初年度とした3カ年の「三重交通グループ中期経営計画（2016-2018）」は、営業収益を除き、各利益項目や経営指標について目標数値を達成し、収益基盤の強化・拡大と財務体質の改善を図ることができました。

特に、成長分野として位置づけた3つの事業、「不動産賃貸事業」、「環境エネルギー事業」、「三交イン事業」への積極投資による攻めの経営により「事業構造の変革」が一層進み、成長・発展の原動力となりました。

基本方針

変化の激しい経営環境に適切に順応し、持続的な成長・発展を実現する

- 安全・安心・安定・快適なサービスの提供
- 成長分野への戦略的投資
- 経営の安定性確保

中期経営計画（2016-2018）

単位：百万円

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	経営計画目標値 (2016年2月公表)
営業収益	96,396	102,742	104,436	106,244	117,000
営業利益	4,644	5,576	6,244	7,139	6,300
経常利益	4,483	5,487	6,431	7,049	5,700
親会社株主に帰属する当期純利益	3,028	3,529	4,172	4,551	3,500
自己資本比率	23.1%	25.3%	28.2%	30.2%	25.7%
ROE(自己資本純利益率)	9.0%	9.5%	10.0%	9.8%	8.6%
ROA(総資産営業利益率)	3.2%	3.6%	4.0%	4.5%	3.8%
有利子負債／EBITDA 倍率	8.0倍	7.0倍	6.2倍	5.8倍	6.5倍
D／Eレシオ	2.2倍	1.9倍	1.7倍	1.5倍	1.9倍

■ 中期経営計画の経営計画目標値（2016年2月公表）の達成項目

前回計画における当社グループの主な取り組み

大規模イベント開催における収益確保

伊勢志摩サミット（2016年5月）
お伊勢さん菓子博2017（2017年4～5月）
全国高等学校総合体育大会（2018年7～8月）



伊勢志摩サミット輸送

御在所ロープウェイリニューアル

- 2018年5月 マオコンロープウェイ（台湾）と友好協定締結
- 2018年7月 リニューアルオープン
- 2018年9月 ロープウェイ乗り場前に路線バス乗入れ（三重交通）



名古屋市交通局市バス運行の受託拡大

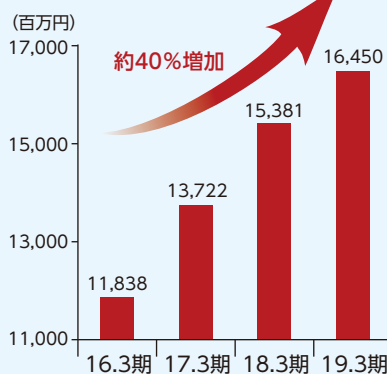
- 2019年2月 浄心営業所、楠営業所に続いて港明営業所の受託開始
- 受託車両数（2019.3.31 現在）
152 両→166 両（14 両増加）



成長分野【事業構造の変革】

- 不動産賃貸事業、環境エネルギー事業へ積極投資
- 三交インの東・名・阪のゴールデンルート上のチェーン化完了
- 不動産賃貸事業・環境エネルギー事業・三交イン事業の収益が増加

左記3事業の収益推移



7 期連続
最高益(純利益)
更新に貢献

新・中期経営計画（2019-2022）の概要

前回の中期経営計画（2016-2018）を受け、当社グループは、2019年5月8日に2019年度を初年度とする新たな4カ年の「三重交通グループ中期経営計画（2019-2022）」を策定しました。本計画は、「2030年のありたい姿」を長期目標として描き、その実現に向けたステップとして、「2022年にあるべき姿」を目指し策定しています。

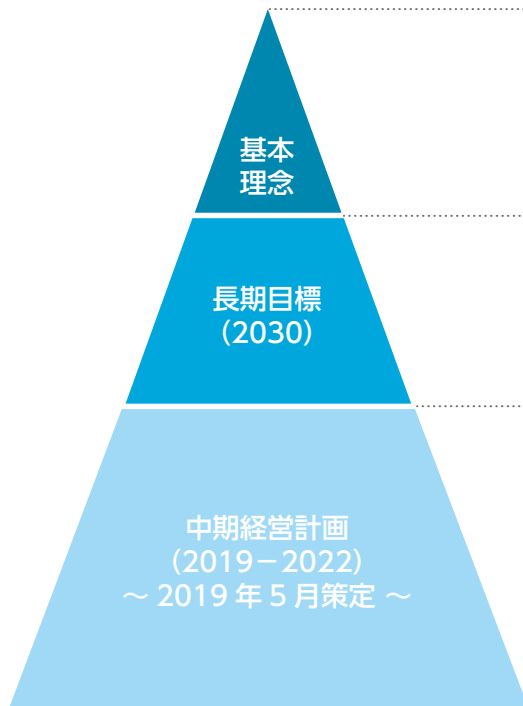
事業環境

・人口動態の変化

三重県北中部と南部の人口格差、名古屋エリアの人口規模、シニア層の増加

・事業機会

新名神高速道路（新四日市JCT～亀山西JCT）開通、改元による消費マインドの高まり、全国中学校体育大会、東京オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博、三重とこわか国体・三重とこわか大会、アジア競技大会、リニア中央新幹線開業、インバウンド増加



グループ基本理念

「三重交通グループは、お客さまの豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献します」

2030年のありたい姿

事業構造の変革で築いた高い収益力と強固な財務基盤を以って、事業領域の持続的拡大とグループ全体の更なる信用力向上を目指します。
～三重県No.1の企業グループ、そして 全国的な知名度アップ～

2022年にあるべき姿

事業構造の変革スピードを緩めることなく、2030年の「ありたい姿」に向かって、グループの総合力を結集し、持続的な「成長・発展」を実現します。
また、変化する環境への適応力向上と地域貢献活動に努めます。

三重交通グループの新しい中期経営計画

新たな時代に進み続ける～ Keep on Going 「令和」～

基本方針

◎安全・安心・安定・快適なサービスの提供

◎市場の変化に対応した事業モデルの構築

◎成長分野の深耕と創造

◎ICT・AI等の有効活用

◎持続的な安定経営への努力



5つの重点施策

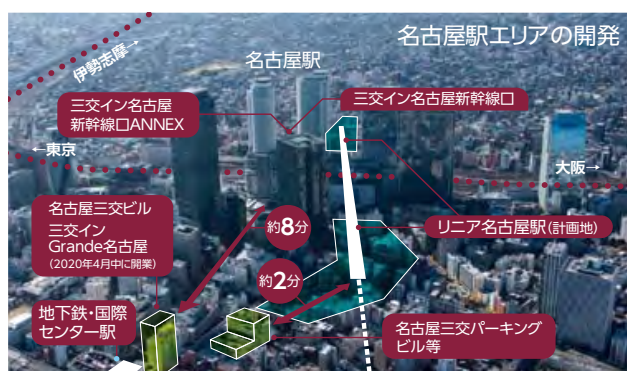
1 「安全・安心・安定・快適」の追求

従来から、安全を最優先に事業を進めておりますが、引き続きハード・ソフトの両面から、さらなる安全確保と快適性向上を図り、三重交通グループのブランド強化に努めます。

また、運輸部門では新技術を活用した快適で効率的な輸送を目指し、自動運転バス実用化に向けた実証実験への参画や、伊勢神宮の外宮と内宮を結ぶ路線での連節バスの導入を検討します。



2 東京・名古屋・関西での事業を展開



- ◇名古屋エリアの収益拡大と資産のバリューアップ
- ◇東・名・阪エリアのマンション事業展開
- ◇東京・関西エリアの展開

人口減少・少子高齢化社会において成長戦略が描けるよう、東京・名古屋・関西などの都市圏での事業を展開します。

名古屋エリアでは、2020年4月開業予定で「名古屋三交ビル」の建替えが計画どおり進捗しています。さらに、リニア中央新幹線の開通を見据え、同ビルに近接する「三交クレールビル・名古屋三交パングビル」の再開発を推進するなど、安定収益の確保を目指して賃貸事業を強化します。

また、名古屋市交通局の市バスの運行受託拡大や、拡充する道路交通網を活用したバスの新規路線開拓・既存路線の強化を図ります。

東京エリア・関西エリアでは、計画的にマンション販売を行います。

三交イン事業では、2019年9月に京都駅新幹線口正面に新規ホテルを開業したほか、2020年4月に「名古屋三交ビル」内にワンランク上の「三交インGrande」ブランドの新規ホテルを開業するなど、さらなる拡充を進めます。

また、2025年の大阪・関西万博開催が決定し統合型リゾート（IR）の誘致が期待される大阪エリアでは、新しい事業の創出を目指します。

3 三重エリアでの事業を深化

地域の街づくりや観光振興等、三重エリアでの事業を深化します。

マンション、ビル等の修繕工事や公共施設、医療機関等の施設管理など不動産管理事業を拡大します。

また、収益の多角化と耕作放棄地の活用を目的とした新規事業として、アグリ事業（トマト栽培）への参入を計画します。

さらに、三重県における交流人口の増加と地域の活性化を図るため、自治体や関係諸団体と連携を図りながら、インバウンドの誘致に注力するとともに、2021年の「三重とこわか国体・三重とこわか大会」等、県内で実施される大型イベントを利用した誘客にも取り組みます。



アグリ事業参入



三重県と連携したインバウンド関連のプロモーション（2019年3月タイ）

4 環境エネルギー事業と三交イン事業の推進

当社グループの成長ドライバーとして、引き続き環境エネルギー事業と三交イン事業を推進します。

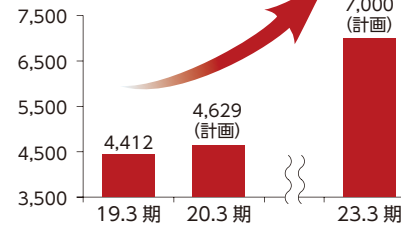


大仏山メガソーラー発電所

三交イン事業では、東日本地域や西日本地域などへのエリア拡大によるチェーン展開の強化や、既存ホテルのリニューアルを進め、収益力強化とサービス向上に努めます。本計画の最終年度2023年3月を目途に20ホテル・2,800室規模のホテルチェーンへと拡大を目指します。

環境エネルギー事業では、太陽光発電の発電規模は2019年3月期の74メガワットから本計画の最終年度2023年3月までに、112メガワットとなる計画です。

ビジネスホテル事業の収益推移
(百万円)



三交イン京都八条口(2019年9月オープン)

5 ICT・AI等の活用を推進

ICT技術を活用したバスの位置情報検索システム「バスロケーションシステム」のサービスエリア拡大などにより、お客様の利便性向上とバスの利用活性化を図ります。

また、AI等の技術による業務の効率化や、グループ内の店舗や施設でのキャッシュレス化などにより、生産性向上を推進します。



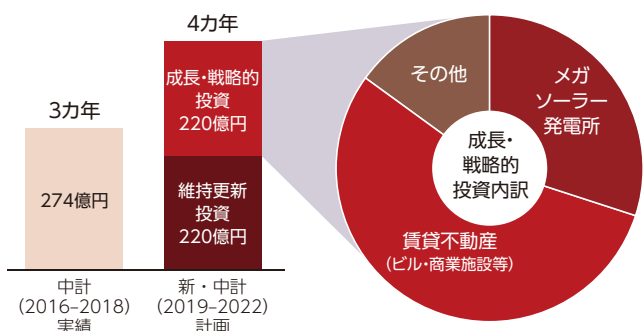
三重交通 バスロケーションシステム

経営計画目標値及び投資計画

経営計画目標値

	2019年3月期 (実績)	2023年3月期 (計画)
営業収益	106,244百万円	115,000百万円
営業利益	7,139百万円	8,300百万円
経常利益	7,049百万円	8,000百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,551百万円	5,300百万円
自己資本比率	30.2%	35%程度
ROE(自己資本純利益率)	9.8%	9.0%程度
ROA(総資産営業利益率)	4.5%	4.0~5.0%
有利子負債/EBITDA倍率	5.8倍	6倍以下
D/Eレシオ	1.5倍	1.5倍以下

投資計画



本計画最終年度の2023年3月期には、営業収益1,150億円、営業利益83億円、経常利益80億円、純利益53億円、自己資本比率以下の目標は記載の通り達成する計画としています。

4カ年の投資額は、440億円程度を計画しています。内訳は、賃貸不動産の開発やメガソーラー発電所建設などの成長・戦略的投資で220億円、バス車両の更新、施設リニューアル等の維持更新投資で220億円となります。

名古屋三交ビル2020年4月開業予定

2018年6月より建替え建設中の名古屋三交ビルは、2020年4月(予定)に開業いたします。

ビルは、「名古屋」駅徒歩約8分、名古屋市営地下鉄「国際センター」駅徒歩約1分、目抜き通りである「桜通」に面し、地下街ユニモールで名古屋駅にも直結する利便性に優れた立地です。新たな「名古屋三交ビル」は、建物全体が優れた耐震性、防災性と機能性を持ち、省エネルギー化等を図るとともに、名駅エリアの新たな都市機能と景観を創出し、地域の賑わいに貢献できることを期待しています。

ワンランク上のビジネス ホテル「三交インGrande」 ブランドにてオープン

8～16階は三重交通グループの㈱三交インが運営するビジネスホテルで、ホテルはワンランク上のブランド「三交インGrande(グランデ)」としてオープン予定です。全客室面積15㎡以上、バス(一部ユニットシャワー)、トイレセパレート式、人工温泉質のスパなどを設け、ビジネスユースはもとより観光ニーズにも対応できるよう、お客様にゆったりと過ごして頂ける空間を提供いたします。

新たな賑わいの形成と 外観デザイン

建物構成は店舗(1階)、オフィス(2階～7階)、ビジネスホテルとすることでビジネス・観光等の交流拠点を形成し、賑わいを創出します。また、建物上層部の外壁を多面体の集合体で構築し、季節、時刻による日影での変化を表現したデザインを計画しています。

フレキシブルかつ快適な オフィス空間の提供

オフィス賃貸フロアは一般企業様向けと三重交通グループの名古屋エリアの拠点としてグループ各社が入居予定。

今後の多様な働き方や機能の最適化を図れるオフィス空間を提供いたします。また三重交通グループ各社のオフィスを集約することで、グループ機能の強化を図ります。



名古屋三交ビル外観イメージ

1階店舗には、三重県名産松阪肉の専門店「株式会社朝日屋(本社:津市北丸之内)」が、名古屋地区初出店となる本場松阪肉を提供する飲食店『すき焼き牛しゃぶ「松重(まつじゅう)」』と、名古屋の老舗カフェ「株式会社サンモリッツ&東京青山ロハスビーンズ」がスペシャルティコーヒーを提供する初業態のコーヒースタンドを出店いただきます。

名古屋市営地下鉄「国際センター」駅 コンコースとの接続

地下1階にて名古屋市営地下鉄「国際センター」駅コンコースと新しいビルをつなぐ地下歩行者通路を設けます。エレベータを利用した接続により、名古屋駅方面へのバリアフリーによるアクセスが可能となります。新たな接続部は内照式の照明等を採用し、歩行者の安全や通路の美観に寄与します。



1階正面エントランスイメージ



地下1階連絡通路イメージ

名称	名古屋三交ビル	構造	地下1階地上16階建
立地	愛知県名古屋市中村区名駅三丁目21番7号 ■名古屋駅徒歩8分、 ■地下街ユニモール14番出口すぐ ■名古屋市営地下鉄桜通線国際センター駅徒歩約1分 ※地下1階で国際センター駅とエレベータ設置によるバリアフリー接続	主要用途	1階 店舗 2～7階 オフィス 8～16階 ビジネスホテル 〔三交インGrande〕 客室128室予定)
		敷地面積	1,227.48㎡ (371.31坪)
		延床面積	約10,470㎡ (3,167坪)
		総事業費	約50億円



新交通サービスに向けての取組み

三重交通グループでは新交通サービスに向けての取組みを積極的に行っています。

次世代移動サービス「MaaS」への参画

2019年6月、次世代移動サービス「MaaS」を推進する国土交通省の先行モデル地域に、三重県の志摩市と菰野町が選ばれ、当社グループでも実証実験へ参画してまいります。

志摩市は、「観光地型モデル」として、近鉄グループホールディングス(株)と協定を結び、バスやタクシーなどの交通情報や地図データ、決済手段を統合したアプリを開発し、「移動のサービス化」を目指しています。2019年10月、11月に第1回実証実験を行い、当社グループの三重交通(株)、(株)三交タクシーもそれぞれ区間の一部でオンデマンドバス等を走らせています。実証実験の結果を活かし、志摩市の交通における利便性向上と誘客に向けて取り組んでいきます。



オンデマンドバス



オンデマンドバス内端末



キックオフイベントの様子



人口が分散している菰野町は「地方郊外・過疎地型モデル」として選ばれ、三重交通(株)の路線バス及び町より受託して運行しているコミュニティバスや、御在所ロープウェイ(株)が運営するロープウェイ、鉄道、タクシーなどの乗り継ぎ困難を解消するため、交通手段を検索し、必要に応じて予約するシステムの構築を目指します。2019年8月21日には、菰野町と交通事業者らによる地域公共交通会議で、「菰野町版MaaS『こもののおでかけ』キックオフイベント」が開かれ、三重交通(株)と御在所ロープウェイ(株)も参加しました。

※MaaS(Mobility as a Service)とはマイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ(移動)を1つのサービスとして捉え、ICTを活用して検索・予約・決済等をシームレスに繋ぐ新たな「移動」概念

スマートシティ実現に向けた実証実験へ協力



共同実証実験スタートデモンストレーション テープカット

名阪近鉄バス(株)は、大垣市のスマートシティ実現に向けた共同実証実験プロジェクトにおける連携協力に関する協定を締結し、2019年4月より大垣市、(株)ヴァル研究所と共同で、岐垣線においてバスローションシステム「BUS CATCH」を活用した「路線バスの位置情報の提供に係る共同実証実験」を行っています。この実験を通じ、リアルタイムにバスの位置情報や運行状況を提供し、バス利用の利便性向上、利用活性化を目指し、市民生活の向上に貢献していきます。

自動運転実証実験への協力

三重交通(株)は、自動運転を研究する群馬大次世代モビリティ社会実装研究センター、桑名市、桑名署などと共に「新交通技術導入検討準備会」を結成し、三重県桑名市中心部で2019年6月28日～30日の3日間、自動運転バスの実証実験を行いました。実験では、関係者約190人と一般公募の約100人が乗車。将来の導入を見据えて解決すべき問題点を洗い出し、少子高齢化社会に伴う公共交通機関のニーズや利便性の確保に対応していきます。

今後も自動運転の実現に向けて、積極的に取り組んでいきます。



実証実験出発式の様子

連節バス試験走行の実施

三重交通(株)と三重いすゞ自動車(株)は、2019年9月2日～6日の5日間、伊勢市内にて「連節バス」の試験走行を行いました。2021年春頃を目途に伊勢市内バス路線への連節バス導入を目指しており、今回の試験は走行環境や道路状況などの調査を目的として実施しました。

導入を検討しているいすゞ自動車の車両、「ERGADUO (エルガデュオ)」(全長約18m、乗車定員119人)は、通常のバスに比べて7.5m大きく、乗車定員も44人多くっており、導入すれば、輸送効率の向上による公共交通の利用促進、観光交通渋滞の低減などに寄与する事が期待できます。



外宮前を試験走行する連節バス

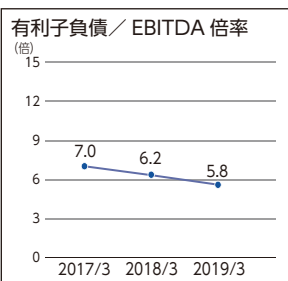
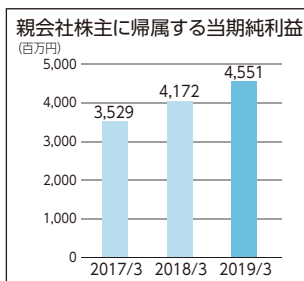
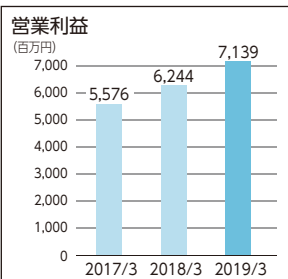
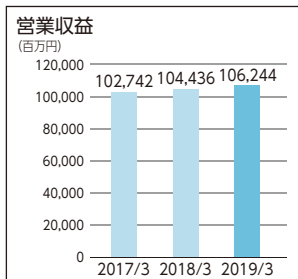


連節バス車内

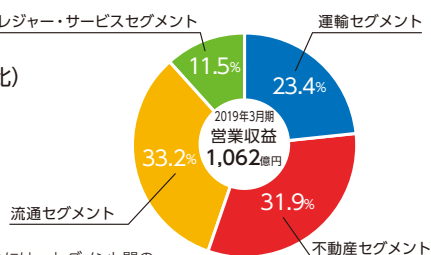
財務データ

経営指標

	2017/3	2018/3	2019/3
営業収益	102,742	104,436	106,244
営業利益	5,576	6,244	7,139
営業収益営業利益率 (%)	5.4	6.0	6.7
連結子会社数 (社)	23	23	23
経常利益	5,487	6,431	7,049
総資産経常利益率 (%)	3.6	4.1	4.5
親会社株主に帰属する当期純利益	3,529	4,172	4,551
自己資本当期純利益率 (%)	9.5	10.0	9.8
1株当たり当期純利益 (円)	35.95	42.15	45.93
1株当たり配当 (円)	7	8	9
利益剰余金	20,134	23,111	26,741
総資産	155,859	155,787	160,770
自己資本	39,451	43,973	48,610
自己資本比率 (%)	25.3	28.2	30.2
発行済株式数 (千株)	107,301	107,301	107,301
1株当たり純資産 (円)	398.51	444.19	490.26
有利子負債	76,837	74,406	74,974
EBITDA (営業利益 + 減価償却費)	10,919	11,921	12,876
有利子負債 / EBITDA 倍率 (倍)	7.0	6.2	5.8
減価償却費	5,343	5,676	5,736
設備投資	11,496	7,727	8,259
営業活動CF	8,154	11,598	9,261
投資活動CF	△12,075	△8,500	△9,197
財務活動CF	3,410	△3,145	△249
現金及び現金同等物期末残高	2,747	2,699	2,513



事業別の概要 (連結営業収益の セグメント別構成比)



※ 各事業の営業収益割合には、セグメント間の内部営業収益等が含まれています。

セグメント情報

	2017/3	2018/3	2019/3
営業収益	102,742	104,436	106,244
運輸セグメント	26,345	26,604	26,180
一般乗合旅客自動車運送事業	11,252	11,556	11,602
一般貸切旅客自動車運送事業	7,926	7,629	7,369
旅客運送受託事業	4,213	4,278	4,370
一般乗用旅客自動車運送事業	1,473	1,505	1,170
貨物自動車運送事業	201	201	203
自動車整備事業	461	530	551
その他	2,699	2,821	2,868
内部取引の消去	△1,884	△1,917	△1,955
不動産セグメント	33,461	35,648	35,768
分譲事業	14,856	15,497	14,359
賃貸事業	8,227	8,310	8,396
建築事業	5,725	5,965	6,465
環境エネルギー事業	2,165	3,214	3,641
不動産管理事業*	—	—	1,899
仲介事業	1,098	1,141	1,292
その他	1,823	1,895	63
内部取引の消去	△435	△376	△350
流通セグメント	36,576	35,531	37,134
石油製品販売事業	11,247	12,051	12,542
生活用品販売事業	12,770	12,177	11,832
自動車販売事業	12,599	11,362	12,797
内部取引の消去	△40	△59	△38
レジャー・サービスセグメント	11,822	12,227	12,920
ビジネスホテル事業	3,330	3,857	4,412
旅館事業	2,942	3,049	2,916
ドライビング事業	2,294	2,296	2,322
索道事業	634	604	808
ゴルフ場事業	444	424	420
旅行事業	957	840	833
自動車教習所事業	923	879	908
その他	296	277	299
内部取引の消去	△0	△3	△1
営業利益または営業損失	5,576	6,244	7,139
運輸セグメント	1,957	1,827	1,419
不動産セグメント	3,223	3,729	4,971
流通セグメント	△14	293	159
レジャー・サービスセグメント	293	305	478
調整額	116	88	110
営業収益営業利益率 (%)	5.4	6.0	6.7
運輸セグメント (%)	7.4	6.9	5.4
不動産セグメント (%)	9.6	10.5	13.9
流通セグメント (%)	—	0.8	0.4
レジャー・サービスセグメント (%)	2.5	2.5	3.7

※ 2019年3月期より不動産セグメント内の表示区分を変更しました。
なお、2017年3月期・2018年3月期における「不動産管理事業」は、「その他」に含まれております。

■ コーポレート・ガバナンス

■ 基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを企業経営上の重要課題のひとつとして認識しており、株主総会、取締役会、監査役会等の諸機関並びにその構成員が、法令に基づきそれぞれの役割を果たすことで、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

持株会社である当社は、特定の事業を行わず、グループ経営に専念することにより全体の経営資源の効率的な配分と事業構造の最適化を図り、グループ全体の価値を高めることを目指しております。

グループの競争力強化と経営資源の効率化を図るため、

多様な事業を「戦略的事业単位」にくくり、それぞれの事業を強力に推進しております。また、グループ各社の財務、法務、広報・IR活動、その他重複する管理業務を漸次集約し、企業集団としての業務の効率化を図っております。

グループの協力・連携体制を強化し、企業集団として整合性のとれた戦略展開によって各種事業の相乗効果を一層高めてまいります。

地域企業としての事業基盤とネットワークを更に発展させ、地域社会に貢献できる企業グループとしての成長を目指してまいります。

■ 三重交通グループホールディングス コーポレートガバナンス・ポリシー（一部抜粋）

当社は持続的な成長による中長期的な企業価値向上のため、「三重交通グループホールディングス コーポレートガバナンス・ポリシー」を制定しております。

第1章 総則

（目的）

第1条 三重交通グループホールディングス株式会社（以下「当社」という）は、当社グループの持続的な成長による中長期的な企業価値の向上を図るため「グループ基本理念」及び「グループ経営指針」に基づき、「三重交通グループホールディングス コーポレートガバナンス・ポリシー」（以下「本ポリシー」という）を制定し、コーポレートガバナンスの継続的な充実に取り組む。

（本ポリシーの位置付け）

第2条 本ポリシーは、会社法、関連法令及び定款を前提として、より実効性の高いコーポレートガバナンスを実現するための指針とする。

第2章 ステークホルダーとの関係

第4章 コーポレートガバナンスの体制

第3章 情報開示

第5章 その他

詳細はwebサイトをご覧ください

■ コンプライアンス

● コンプライアンス・ステートメント

これからの企業の存続・発展は、すべてのステークホルダー（お客様、地域社会、株主・投資家、取引先等）から好感を持たれること、適切な情報開示をモラルに秀でた透明性のある企業経営を指向すること、健全な経済成果を追求すること、これらのバランスを重視するという新たな価値観、倫理観を確立することが必要となってきました。

そこで、新たな「価値観・倫理観」の共有のために、社員全員が分かりやすく理解できるような「グループコンプライアンス行動規範」を制定しました。

私たちは、自らの企業使命を自覚し、一丸となってコンプライアンスを確立しこれを遵守することをここに誓います。

● グループコンプライアンス行動規範

この「グループコンプライアンス行動規範」は、業務遂行にあたり、法令及び社内規定の遵守はもとより、社会規範を尊重し、公正かつ適切な事業活動を行うための原則を示したものです。

- | | | |
|----------------|---------------|--------------------|
| ① 法令・社会規範の遵守 | ② お客様からの信頼 | ③ 公正な事業活動 |
| ④ 適切な情報開示 | ⑤ 社会への貢献・責任 | ⑥ 環境問題への取り組み |
| ⑦ 人権尊重・健全な職場環境 | ⑧ 情報、知的財産権の管理 | ⑨ コンプライアンス体制の推進・改善 |

■ リスク管理

● グループリスク管理規程

グループ各社において発生するリスクを適切に管理するための基本的方針を定めた「グループリスク管理規程」を制定しています。このリスク管理規程に基づき、グループに影響を与えるさまざまなリスクについて、適切に情報を把握し処理を行うことにより、これを未然に防止するとともに、万一発生した際の損害を最小限にとどめます。

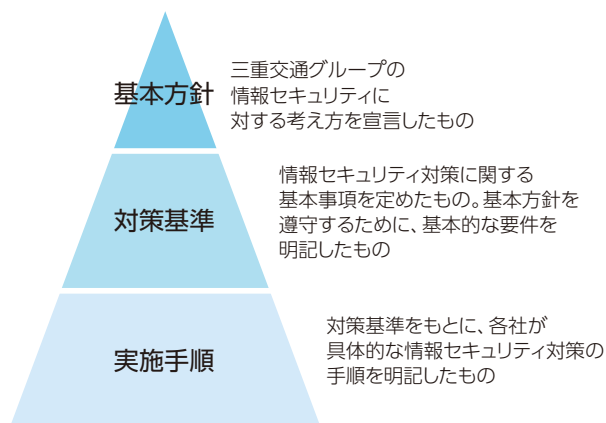
また、情報セキュリティポリシーに基づき、グループ各社において具体的な情報セキュリティ対策を定める「情報セキュリティ実施手順」を制定しています。

● 三重交通グループ情報セキュリティポリシー

グループ各社において発生するリスクを適切に管理するための基本的方針を定めた「グループリスク管理規程」を制定しています。このリスク管理規程に基づき、グループに影響を与えるさまざまなリスクについて、適切に情報を把握し処理を行うことにより、これを未然に防止するとともに、万一発生した際の損害を最小限にとどめます。

また、情報セキュリティポリシーに基づき、グループ各社において具体的な情報セキュリティ対策を定める「情報セキュリティ実施手順」を制定しています。

三重交通グループ情報セキュリティポリシー体系図



安全・安心への取組み

自信と誇り。

安全・安心を心がけ
使命感を持って仕事に
臨んでいます。



三重交通 運転士研修の様子
(安全運転研修車にて)

バス事業の取組み

三重交通(株)	名阪近鉄バス(株)	三交伊勢志摩交通(株)
三重急行自動車(株)	八風バス(株)	



三重交通グループは絶えず安全性の向上に努めて運輸事業を行う為、運輸安全マネジメントを導入し、取り組んでいます。ここでは、三重交通(株)及び名阪近鉄バス(株)における2018年度の取組み内容の一部を紹介します。なお、今回紹介します安全・安心を提供するための各取組みは、グループ全てのバス会社にてそれぞれ実施しています。

三重交通(株)

● 社長方針

- 1.「無事故は使命」
- 2.「思いやりとプロの自覚」

● 取組み事項

- 1.事業活動においては、お客様の安全確保を第一に考えます。
- 2.安全確保のため、日ごろから危険要因の排除に努め、安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善(PDCA)を確実に実施します。
- 3.安全に関する教育、研修、訓練等を積極的に実施します。
- 4.常に安全意識を高く持ち、社会の変化に対応しつつ確固とした体制を構築し、法令遵守を徹底します。
- 5.事故、災害が発生した場合には、お客様の救護を最優先に行い、関係機関との連携を密にし、被害の拡大防止と早期復旧を図るとともに、輸送の安全に関する情報について積極的に公表いたします。
- 6.管理の受委託において、委託者及び受託者は相互に協力、連携して輸送の安全の向上に努めます。

■ 事故防止対策委員会を開催 (安全マネジメントに関する会議体)

安全統括管理者を委員長とした社内及びグループ運輸会社管理者から構成される事故防止対策委員会を年5回開催し、「安全輸送とサービス向上運動」への取組みとともに事故防止の通年重点施策を策定しています。

【開催月：4月・7月・9月・12月・3月】



事故防止対策委員会

■ 「安全輸送とサービス向上運動」の実施

事故防止と接客向上を目指して、春・夏・秋・年末年始の年4回「安全輸送とサービス向上運動」を実施しており、各運動期間終了後、運動期間中成績優秀な営業所について運動表彰規程に基づき社長表彰を行っています。

■ 会社トップによる職場巡視の実施

社長、副社長及び安全統括管理者が、受託営業所ならびにグループ会社を含めた全営業所に対して職場巡視を実施し、取組み状況の確認と課題を把握するとともに安全意識の醸成のため、現場管理者との意見交換を行い、同時に乗務員との懇談会を実施し、意思の疎通と安全意識の向上を図っています。

- ①社長による職場巡視……年2回(7月～8月・12月)
- ②副社長による職場巡視……年2回(9月～10月・3月～5月)
- ③安全統括管理者による職場巡回については、社長及び副社長巡視時に同行するほか、安全統括管理者単独による営業所巡回を2回実施しました。



社長による職場巡視



社長による乗務員懇談会

■ バス事業の取組み

■ 法令遵守に対する意識の向上

- ①運転記録証明書を取得(社員 1,800名)
- ②飲酒運転及び運転免許証有効期限切れと不携帯の防止
- ③違法薬物使用の防止



点呼の風景



アルコールチェック

■ 安全への投資(2018年度実績)

バスの運行管理を適切に維持し、安全性をより高めるために、バスの機能維持・向上の投資を行っています。

- ①シートベルト着用案内放送装置の導入
- ②車線逸脱警報装置
- ③車両ふらつき警報装置
- ④衝突被害ブレーキ
- ⑤車両安定制御装置



EDSS

※2019年9月からドライバー異常時対応システム(EDSS… Emergency Driving Stop System)搭載バスを導入しています

■ 危機管理並びにリスク管理体制の強化

乗務員講習会において、緊急時の対応マニュアルを周知するとともに、様々な異常時に対する研修、訓練を実施しています。

(2018年度主な訓練実績)

- ①緊急時対応マニュアルの周知
- ②テロ対策巡回等の実施
- ③救急救命訓練の実施

消防等関係機関の指導によるAED等を使用した、救急救命及び緊急時対応訓練を各営業所で実施しました。

- ④火災発生時の対応 訓練の実施

車両火災等発生時における、消火訓練及び非常時における車両からの緊急脱出訓練等を各営業所で実施しました。



救急救命訓練

■ 健康管理等の対策

安全に影響を及ぼす可能性のあるリスク要因の低減の為、健康管理対策を行っています。

- ①運転士に対して、年2回の定期健康診断(全運転士が実施)及び、診断結果の把握・面談と必要に応じた再検査等の指導
- 高齢運転士に対する安全対策の為、脳ドックの実施
- ②睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の実施
- ③飲酒運転防止対策
- ④ストレスチェックの実施(10月)

■ 輸送の安全に関する教育・研修

バス事業において、社員一人ひとりの知識と経験がより安全に活かされるように、様々な教育・研修を行っています。

- ①社内研修の実施(統括運行管理者、運行管理者、初任運行管理者及び運行管理補助者を対象に実施)
- ②社外研修の受講(独立行政法人自動車事故対策機構が実施する運転適性診断 一般診断(3年に一度の受診) 304名(2018年度実績・グループ会社含む))
- ③中長距離高速路線バス運転士養成研修
- ④運転士補習教習
- ⑤シニア運転士教習(再雇用運転士)
- ⑥スキーバス運転士養成教習
- ⑦貸切バス運転士養成教習
- ⑧主事運転士研修
- ⑨事故・苦情惹起者再教習
- ⑩社外研修機関による研修
- ⑪新規採用運転士養成研修
- ⑫運転経験1年未満運転士フォローアップ研修



統括運行管理者研修

■ 新研修車両の導入

運転実技研修の更なる充実のため、研修に有効な機器装置を装備し、運転技能向上及び省エネ運転の実践を図るとともに、大規模輸送、災害時における拠点機能を有した車両としての活用を目的としています。(新人運転士教習及びフォローアップ研修等で活用)



モニターを使用した、リアルタイム指導



安全運転研修車

■ 運行業務の適正化

- ①内部監査及び運行管理業務監査の実施
- ②運行業務点検の実施(年3回)

名阪近鉄バス(株)

● 輸送の安全に関する基本的な方針 (名阪近鉄バス安全方針)

1. 輸送の安全の確保が事業経営の根幹
2. 安全輸送に関する関係法令等の遵守
3. 安全マネジメント体制の継続的改善等の実施
「安全の確保」を最優先に、「めくもり・おもてなし」の心で接遇し、お客様に信頼され、選ばれるバス会社を目指します。

● 取組み事項

1. 「輸送の安全確保が最も重要である」という意識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守します。
2. 輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めます。
3. 輸送の安全に関する内部監査を実施し、必要な正・改善措置又は予防措置を講じます。
4. 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有します。
5. 輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを的確に実施します。

■ 所長・整備長の会議開催

事故防止委員会(定例)・・・毎月1回開始し、年間12回開催しました。

所属長会議(臨時)・・・年間3回開催しました。

【実施月：9月・12月・2月】

運行管理者会議(臨時)・・・年間4回開催しました。

【実施月：4月・9月・12月・2月】



事故防止委員会

■ 運行管理者補助者研修会の開催

運行管理補助者全員を対象に研修会を開催し、運行管理業務の更なる向上を目指しました。

■ 乗務員年間指導教育計画

乗務員年間指導教育計画に基づき、月毎の指導項目について、乗務員に対し安全教育を実施しました。



AED講習

■ ヒヤリ・ハット体験の収集

2月をヒヤリ・ハット強化月間と定め、運転士からのヒヤリ・ハット情報を集計し、今後の事故防止対策を作成し、事故の未然防止に役立てました。

■ ドライブレコーダーの映像を活用した指導の実施

全車両に装備したドライブレコーダーからヒヤリ・ハットや事故の映像記録を収集し、ヒヤリ・ハットや事故に至った原因及びそれに関する要因について分析を行い再発防止策の構築に役立て交通事故の防止に取り組みしました。

■ 飲酒運転の撲滅

運転士にアルコール検知器を貸与し、自宅を出勤する前にアルコール検査を行い通勤時においても飲酒運転の防止を図りました。

■ 労務管理等の徹底

運行管理システムを活用し、運転士の拘束時間・乗務時間・連続運転時間・走行距離・休憩時間等の管理を行いました。



監査・立合指導(名阪近鉄バス)

■ 安全への投資(2018年度実績)

輸送の安全に関する投資を下記のとおり実施しました。

- ①乗務員教育訓練、講習会の実施
 - ②最先端の安全性を備えた新車導入
 - ③ドライブレコーダーのリアルタイム通信化
 - ④IP無線機の導入(高速バス)
 - ⑤モバイルアルコール検知器の校正
 - ⑥個人貸与アルコール検知器の代替
 - ⑦交通安全 e-learning の導入
- ※2019年5月からドライバー異常時対応システム(EDSS… Emergency Driving Stop System)搭載バスを導入しています



EDSS(運転席)

■ その他バス事業の取り組み



■ テロ対策訓練への参加

三重交通(株)

三重交通(株)は2019年6月19日、近鉄津駅西口にて、近畿日本鉄道、津警察署とともに「無差別殺傷事件」を想定したテロ対策訓練を実施しました。駅構内にいる2人組の不審者が駅員に声をかけられると逃走し、不審者の1人がバスに乗り込み移動を強要、逃げ出した運転士がバスの扉を閉めて警察官に助けを求めるという設定で、この訓練は同月28日、29日に大阪で開催されたG20大阪サミット2019に向けて実施されました。



テロ対策訓練の様子

■ スキーバス研修の実施

三重交通(株)

名阪近鉄バス(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通グループ各バス会社では、毎年スキーバス研修を行っています。

三重交通(株)は、2018年12月25日～27日の3日間、奥美濃、信濃方面で雪上走行訓練を実施しました。参加者は、学科教習やチェーンの脱着訓練、夜間走行などを含む実技教習を行い、雪道走行に対する技術向上に努めました。



スキーバス研修の様子(三重交通)

また、名阪近鉄バス(株)は、毎年志賀高原にて冬季雪上運転訓練を行っています。参加者は事前に営業所にてチェーンの脱着を完全にマスターした後研修に参加し、現地での脱着訓練や安全な場所でのノーチェーン走行と雪道走行を体験する等、チェーンの重要性和雪道での運転技術の向上に努めています。(2019年1月16日～17日実施)



スキーバス研修の様子(名阪近鉄バス)

■ 普通救命講習会の受講

三重急行自動車(株)

三重急行自動車(株)では、急病人やけが人の発生にという不測の事態に備え、三重交通(株)松阪営業所と合同で松阪地区広域消防組合より講師を招き、心肺蘇生法やAEDの使用方法について講習会を実施し、人命救助について初め対応の大切さを確認しました。



普通救命講習会の様子

■ スキルアップコンテスト開催

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、2019年3月に運転士の技術向上の一環として、タイヤチェーンの安全・正確かつスピーディーな装着を競うスキルアップコンテストを開催しました。乗合バス・貸切バスの各部門の予選上位者で決勝を行い、個人部門で9名の運転士が表彰されました。日頃の技術をさらに磨き、基本作業の重要性和安全・安心への意識向上に努めています。



スキルアップコンテスト受表彰者

■ 大垣警察署と「安全・安心まちづくりに関する協定」締結

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、2019年5月に大垣警察署と「安全・安心まちづくりに関する協定」を締結し、路線バス車内や大垣駅前案内所でのポスター掲示、車内アナウンス等で二重電話詐欺被害をはじめとした各種犯罪への未然防止や交通事故抑止のための啓発活動を行い、地域の安全・安心なまちづくりに参画しています。



大垣警察署と協定締結の様子

■ SSS(スリーエス)乗務員認定制度

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、乗務員の技能向上の一環として、SAFETY(安全)・SERVICE(おもてなし)・SKILL(技術)の3つの分野において優れた乗務員を認定する社内制度を設けています。認定者対象の研修を実施し、さらにサービス接遇検定、おもてなしスキルスタンダード認定を取得するなど、安全・安心にご乗車いただけるよう、より一層のサービス品質向上に取り組みます。



SSS認定乗務員(ゴールド)

■ 貸切バス事業者安全性評価認定制度「3つ星」継続認定

三重交通(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通バスグループ4社(三重交通(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))は、2017年12月に公益社団法人日本バス協会の「貸切バス事業者安全性評価認定制度」において、最高ランク「3つ星」認定を継続取得しました。

当社グループバス各社においては、2011年度の認定取得後も安全確保に取り組み、2013年9月には「2つ星」を、2015年9月には安全への取り組みが評価・認定され、最高ランクである「3つ星」を取得しています。今後も、皆様に「安全・安心・安定・快適なサービス」を提供できるよう、より一層の安全管理に取り組んでまいります。



評価認定制度のシンボルマーク

■ その他事業の取り組み



■ お客様情報保護の徹底

(株)三交コミュニティ

(株)三交コミュニティでは「お客様情報保護」の徹底を図っており、その証として2017年5月に、三重県内に本社を構える管理会社として初めて「プライバシーマーク」を取得しました。今後も、継続してお客様より安心して業務委託いただけるよう努めます。



■ 24時間対応フロントと安心のセキュリティー

(株)三交イン

(株)三交インでは、24時間対応フロントで緊急時でも安心して宿泊していただけます。客室には、セキュリティーの高いカードキーを採用しており、深夜の入館時にもカードキーを利用していただくことで夜間の安全も確保しています。



カードによるセキュリティー

■ 災害時石油燃料の優先供給契約締結

三重交通商事(株)

三重交通商事(株)では、公共性の高い企業様と、災害時の石油燃料優先供給契約を締結し、災害時社会情報インフラの維持に協力しています。

■ 自動車サービス・部品技能コンテストを開催

三重いすゞ自動車(株)

三重いすゞ自動車(株)は、毎年社内サービス・部品技能コンテストを開催し、日頃の業務で身につけた知識・技術を競い合います。社員一人ひとりが技術を向上させることにより、サービスに対する安全性を高めています。入賞した社員の中から、いすゞ自動車主催の中部支部、及び、全国のコンテストへ出場します。



自動車サービス・部品技能コンテストの様子

■ 防火訓練実施

鳥羽シーサイドホテル(株)

鳥羽シーサイドホテル(株)は、2019年6月に防火訓練を実施しました。望館8階から出火したという想定で、鳥羽消防署の指導の下、消防署への通報、館内への連絡、宿泊客の避難誘導といった一連の流れを訓練し、最後に新入社員らが実際に消火器を使った消火訓練を行いました。

定期的に訓練を行う事で、万一の場合にも迅速かつ適切な対応ができるよう努めています。



防火訓練の様子

■ 一般救命講習 受講

鳥羽シーサイドホテル(株)

鳥羽シーサイドホテル(株)は、2019年3月12日に鳥羽消防署から講師を招き、救命講習を受講しました。19名がAEDの使用方法などを実際に器具や人形を用いて訓練しました。緊急時に備え、どの部門のスタッフでも初動活動に携われるよう今後も定期的に開催する予定です。

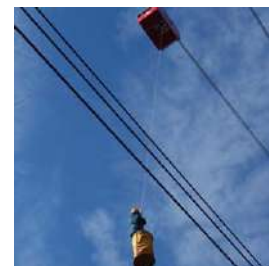


一般救命講習の様子

■ 御在所ロープウェイにて救助訓練実施

御在所ロープウェイ(株)

御在所ロープウェイ(株)は、事故、災害等の緊急事態に備え、救助装置の取り扱い、搬器からの降下訓練、登山道の安全確認等の救助訓練を実施、安全の確保に努めています。



救助訓練の様子

■ 「バスキャッチ」システム稼働による効率的な運転

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールは、2018年11月より送迎バス予約サービスシステム「バスキャッチ」を稼働し、効率的な送迎になったことでバスの安全運転、排気ガス削減等の環境改善にも繋がり、またバスの耐久性にもより良い効果を出しています。



バス予約システム「バスキャッチ」

環境への取組み

自然に寄り添う。

豊かな自然、歴史を
未来へ繋いでいきます。

大仏山メガソーラー発電所内ビオトープ
カワバタモロコ放流イベントの様子
(多気郡明和町)

■ バス事業の取組み



■ グリーン経営認証の取得

三重交通(株)

三重交通(株)はグリーン経営推進マニュアルに基づいて、一定のレベル以上の取組みを行っている事業者であるとして、名古屋・名古屋観光営業所、四日市・北部観光営業所、中勢・中部観光営業所の各営業所がグリーン経営認証を取得しています。今後も継続に努めます。



グリーン経営認証ロゴマーク

■ 環境定期券制度の実施

三重交通(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通グループでは、環境定期券制度を実施しています。環境定期券制度とは、普通定期券でバスをご利用いただくお客様が、土曜・休日に定期券区間外へレジャーやショッピングにお出かけの際、運賃を通常の半額でバスをご利用いただく事で、不用なマイカー利用を少しでも減らし、バスの利用促進を図ろうとする制度です。この制度により、市内中心部の交通渋滞の緩和や排気ガスの抑制などを図り、環境保全に取り組んでいます。

■ 低炭素な街づくりのシンボル、電気バスの導入

三重交通(株)

三重交通(株)は、国、三重県、伊勢市が推進する「低炭素なまちづくり」の実現に向けた取組みとして、2014年3月よりポケットモンスター(ポケモン)で人気の「ピカチュウ」とでんきタイプのポケモンを施したデザインのバスを伊勢市内で運行しています。



電気バス

©2019 Pokémon. ©1995-2019 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc.

■ 路線バスにハイブリッドバスの導入

三重交通(株)

名阪近鉄バス(株)

三重交通(株)では、2013年10月から「ハイブリッドバス」を積極的に導入しています。このバスはエンジンとモーターが効率よく働く平行式ハイブリッドシステムを搭載し、エネルギー効率の高い環境性能に優れた低公害車で、環境に優しい設計となっています。

(導入実績 2013年度・中勢営業所5両、2016年度・伊勢営業所2両、2017年度・四日市営業所2両、2018年度・南紀営業所3両)

また、名阪近鉄バス(株)においても2014年度に若森営業所へ1両導入しています。



ハイブリッドバス(三重交通)



ハイブリッドバス(名阪近鉄バス)

■ その他環境にやさしいバスの導入

三重交通(株)

名阪近鉄バス(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通グループでは、その他様々な低公害車を導入し、環境対策に積極的に取り組んでいます。

- アイドリングストップバス…排気ガスや燃料消費を抑制するために、バス停や信号待ち等で自動的にエンジンを停止させるアイドリングストップバスを採用しています。
- NOx(窒素酸化物)やPM(粒子状物質)の排出量がより少ない低排出ガス車(低排出ガス認定車)等、最新排出ガス規制適合車を積極的に導入しています。(平成27年度燃費基準15%向上達成車、「ポスト・ポスト新長期排出ガス規制」適合車等)

■ その他事業の取り組み



■ 燃費コンテスト開催

三重交通(株) 三交伊勢志摩交通(株) 三重急行自動車(株)
八風バス(株)

三重交通グループバス会社4社(三重交通(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))は2018年11月1日～30日までの30日間、燃費コンテストを実施しました。燃費コンテストは、バスの燃費向上・エコドライブを意識付けするため実施しており、各営業所・各会社ともに前年比2%燃費向上の目標を掲げて取り組みました。

今後も継続して取り組み、環境に優しいバスの運行に努めます。



燃費コンテスト表彰の様子

■ 「手荷物配送サービス」で回送バスを活用

三重交通(株)

三重交通(株)は2018年9月から、ヤマト運輸(株)と提携し、回送バスを活用して手荷物を鳥羽市の近鉄鳥羽駅から伊勢市の宇治山田駅と伊勢市駅に運ぶ配送サービスを行っています。この取り組みによって、旅行者が手ぶらで観光を楽しめるということに加え、輸送の効率化や環境負荷の軽減が見込めます。営業中のバスを使った配送は全国でも行われていますが、回送バスを使用するのは全国で初めての取り組みでした。



ヤマト運輸提携・手荷物配送サービス開始

■ バス駐車場に太陽光パネルを設置

三重交通(株)

三重交通(株)は、四日市営業所、中勢営業所(津市)、伊賀営業所の3拠点において、バス駐車場(一部 普通車含む)に上屋及び太陽光発電設備を設置し、合計1627kWの発電を行っています。

バス駐車場に太陽光発電設備を備えた上屋を設置することで、荒天時におけるバス点検などの作業環境の向上やバス車両における夏季の冷房負荷軽減・冬季の霜対策・塗装の保護ができ、また、上屋に照明を取り付けることで防犯面の強化を図っています。今後さらに、再生可能エネルギーの普及に繋がる事を期待しています。



太陽光パネル(中勢営業所)

■ ZEH住宅への取り組み

三交不動産(株)

三交不動産(株)では、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)登録ビルダーとして、ZEH住宅の普及に積極的に取り組んでいます。注文住宅標準仕様の外断熱工法は、ZEHの断熱基準にもしっかりと対応した省エネ・エコ住宅です。政府が定めている「エネルギー基本計画」に基づき、2020年度までには建設する住宅のうち、ZEH住宅が占める割合を50%以上とする事業目標を掲げて、普及拡大に努めています。



ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス ロゴ

■ 三重県の優良事例に「津メガソーラー杜の街」

三交不動産(株)

三交不動産(株)では、合計出力約88メガワットのメガソーラー発電所を稼働させています(2019年10月末現在)。この規模の発電所を1年間運転すると、約104,000,000kWhの電力を発電し、これは約28,800世帯分の電力量に相当します。

「津メガソーラー杜の街」(三重県津市河芸町)は、地域に充分配慮しているなど模範となる事例として、三重県の「優良事例10施設」に取り上げられました。非常時のバッテリーによる電源の提供、防眩性の優れたパネルの使用など地域の皆様に寄り添う姿勢を大切にしています。



津メガソーラー杜の街
地域の皆様にご覧いただく電光掲示板



津メガソーラー杜の街

■ その他事業の取り組み

■ 「みえ生物多様性パートナーシップ協定」締結

三交不動産(株)

三交不動産(株)は、2019年3月、三重県・三重大学・鳥羽水族館と「みえ生物多様性パートナーシップ協定～カワバタモロコの保護に関する協定～」を締結しました。絶滅危惧種に指定されている「カワバタモロコ」を、大仏山メガソーラー発電所(三重県多気郡)内のビオトープに保護し、生物多様性保全の取り組みを進めています。保全活動の一環として同年4月に地元関係者の皆様とカワバタモロコの放流式を開催しました。



カワバタモロコ放流イベントの様子

■ 事業場の廃棄物対策を推進

三重いすゞ自動車(株)

三重いすゞ自動車(株)では、毎年担当者が各拠点を訪問し、廃棄物及び油脂等の汚染対策に取り組み、環境にやさしい事業場づくりを目指しています。

■ 省資源化への取り組み

(株)三交イン

(株)三交インでは、「楽しくECOを考えます」のスローガンのもと、客室備え付けのアメニティグッズは準備せず、フロントで「必要なものだけ」を自由選べる「アメニティBAR」を用意しています。また、連泊されるお客様には、ご希望があれば、「清掃不要」を手軽に宣言いただけるよう、マグネットステッカーを用意し省資源化に取り組んでいます。



アメニティBAR



「清掃不要」のマグネットステッカー

■ 植樹活動の実施

御在所ロープウェイ(株)

御在所ロープウェイ(株)は、企業等が社会貢献事業の一環として実施している御在所岳山上公園での植樹に積極的に協力しています。2018年度は鈴鹿国定公園指定50周年にあたり、三重県、滋賀県知事、緑化活動に取り組む子どもらによる記念植樹も実施されました。



植樹活動の様子

■ エコドライブチャレンジバトル会場提供

(株)三交ドライビングスクール

四日市自動車学校では、毎年、環境に配慮した運転方法(エコドライブ)を学ぶチャレンジバトルの会場を提供し、燃費改善や安全運転につながるエコドライバーの育成に協力しています。

■ 第30回 花と緑のふれあい展

ミドリサービス(株)

大垣市主催の花と緑のふれあい展が2019年4月に大垣公園内で、2日間開催され、ミドリサービス(株)も参加しました。当社を含めた造園業者は、軽トラガーデンを作成し、また造園に関するフリーマーケットなども取り入れ、多くのお客様に緑を親しんでいただきました。

大垣市は毎年緑化に対していくつかのイベントを開催しており、今後もこのような取り組みに参加していきます。



花と緑のふれあい展の様子

社会への取り組み

地域社会を支える。

人と人との絆を大切にして、
地域社会を支え続けます。



三重交通 一身田大里線
(三重県津市)

■ お客様のために



■ バリアフリーバスの導入

三重交通(株)	名阪近鉄バス(株)	三交伊勢志摩交通(株)
三重急行自動車(株)	八風バス(株)	

三重交通グループバス会社5社(三重交通(株)、名阪近鉄バス(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))では、高齢化社会、福祉社会と言われる中「人にやさしいバス」として、お年寄りや障がい者の方、お子様にも乗降しやすいノンステップバスや車いす対応のバス、リフト付観光バスを積極的に導入しています。



ノンステップバス(スロープ)



車いす対応バス

リフト付観光バス

■ ヘルプマークの啓発

三重交通(株)	名阪近鉄バス(株)	三交伊勢志摩交通(株)
三重急行自動車(株)	八風バス(株)	

三重交通グループバス会社5社(三重交通(株)、名阪近鉄バス(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))は、外見からはわからない障がいや病気の方への配慮や援助の必要を周囲に知らせる「ヘルプマーク」のステッカーを各路線バスのバス車内の優先座席付近に貼付し、本取組みの啓発と協力をお願いしています。



ヘルプマークの掲示

■ 運転免許返納割引の実施

三重交通(株)	名阪近鉄バス(株)	三交伊勢志摩交通(株)
三重急行自動車(株)	八風バス(株)	

三重交通グループバス会社5社(三重交通(株)、名阪近鉄バス(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))では、運転免許返納者を対象としたバス運賃割引制度を実施しています。

(※名阪近鉄バス(株)は下記内容①のみ)

<割引制度の内容(運転経歴証明書の提示が必要)>

- ①本人及び同伴者1名のバス運賃が1乗車毎に半額(他割引と併用不可)
- ②フリー定期券「セーフティーパス」の購入が可能

■ 「シルバーエミカ」の利用開始

三重交通(株)	三交伊勢志摩交通(株)	三重急行自動車(株)
八風バス(株)		

三重交通グループバス会社4社(三重交通(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))は2017年9月より、津市と連携して「津市高齢者外出支援事業」に取り組み、「シルバーエミカ」の利用を開始しました。

「シルバーエミカ」は津市が作成した交通系ICカードで、津市内に在住の65歳以上の方を対象に、マイナンバーカード提示による申請で無償交付するカードです。このカードには、津市により三重交通グループの4社路線バスで利用できる乗車ポイント2,000円分が付与され、さらに津市内コミュニティバスにはシルバーエミカ提示により無償で乗車いただけます。事業初年度である2017年度から2018年度の交付枚数は8,165枚で、現在も継続して交付を行っています。



シルバーエミカ

■ バリアフリー対策の推進

(株)三交イン

(株)三交インでは、ご高齢や障がいを持つお客様に安心してホテルでの滞在をお楽しみいただくための取組みを進めています。

9ホテルでユニバーサルルームの提供やシャワーチェアの設置をしているほか、全ホテルで車椅子ご利用のお客様のスムーズな移動のためホテル出入り口のスロープ化、車椅子の貸し出しなどバリアフリー対策を推進しています。



シャワーチェア



ユニバーサルルーム

障がい者用の教習車両による教習を実施

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールは、脱着可能な旋回式ハンドルノブや左足アクセル、レバー式のアクセル・ブレーキ車両等、身体の障がいに対応できる専用車両を備え、教習を行い、難聴者については手話による学科教習を取り入れています。また、建物の入り口にスロープと手摺りを設置し、車椅子を使用する方へのバリアフリー化にも取り組んでいます。



障がい者用教習車



障がい車用教習車

エミカIC定期券発売開始

三重交通(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通グループバス会社4社(三重交通(株)、三交伊勢志摩交通(株)、三重急行自動車(株)、八風バス(株))は、2018年8月よりこれまで紙券であった通勤定期券、通学定期券、セーフティーパスをICカード化し、「エミカIC定期券」として発売を開始しました。定期券のIC化により、連続しない2区間を1枚で利用できるようになり、またチャージしておけば乗り越しも自動で支払うことができ、利便性向上に繋がっています。



エミカIC定期券

バスロケーションシステムの拡充

三重交通(株)

三重交通(株)は2019年3月28日より、スマートフォンやパソコン、携帯電話から路線バスの現在位置がすぐに確認できる三重交通バスロケーションシステム「Bus-Vision」をリニューアルしました。検索対象エリアをこれまでの四日市・鈴鹿・亀山・津に加え、新たに桑名エリアを拡大したほか、多言語案内(英語、中国語「繁体字・簡体字」、韓国語)や地図からの検索(最寄りのバス停を表示)、接近メール配信など、便利な新機能を追加しました。



バスロケーションシステム画面

タブレットを使用したガイド案内開始

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、2018年より観光バス車内でタブレットを使ったガイド案内を行っています。「Evernote Business」搭載のタブレットと車載モニターを連動させ、お客様や目的に合わせたリアルタイムな情報をよりわかりやすく提供しています。



タブレットを使ったガイド案内

インバウンド向けバスの導入

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、主に訪日外国人観光客などの団体客に対応するため、大型ラゲージスペースやWi-Fi搭載、USBポートを設置した中型バス「ポーター」を2017年4月から導入し、利便性向上に努めています。



ポーター荷物室ドア

台湾・猫空(マオコン)ロープウェイと友好協定締結

御在所ロープウェイ(株)

御在所ロープウェイ(株)は、台湾で最長の路線をもつ猫空(マオコン)ロープウェイと認知度向上、相互誘客を目的に、2018年5月、双方にとって初となる友好協定を締結しました。

相互誘客の取組みとして、お互いのポスターやパンフレットを設置し、そのパンフレットを持参すれば割引サービスを受ける事ができます。今後は、三重県と台北市との観光交流の架け橋となるように、相互PRなどを通して友好関係を深めてまいります。



猫空ロープウェイとの調印式の様子

■ お客様のために

■ 観光バスにフリー Wi-Fi 搭載

三重交通(株)

名阪近鉄バス(株)

三重交通(株)では、2018年4月より、訪日外国人観光客をはじめとするお客様の利便性向上を目的として、公衆無線LANサービス「MieKotsu Free Wi-Fi」の利用路線を拡大し、高速バスなど全12路線に導入しています。また、三重県が推進する公衆無線LAN事業「Free Wi-Fi-MIE」、およびエヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム株式会社が提供する認証アプリ「Japan Connected-free Wi-Fi」もご利用いただけます。

名阪近鉄バス(株)は、観光バスのほぼ全車にWi-Fi機器を搭載し、2019年7月1日より無料利用サービスを本格的に開始しました。また、2018年2月に運行開始した「セントレア京都線」においてもフリーWi-Fiサービスを行っています。



三重交通車内
Free Wi-Fi案内



名阪近鉄バス車内
Wi-Fi案内

■ 外国語表記フロア案内パネル

(株)三交クリエイティブライフ

東急ハンズANNEX店では、外国人のお客様へ向けたサービス向上の一環として、外国語表記(3種2カ国語:英語、北京語、広東語)のフロア案内ボードを2017年7月より設置しています。客数全体の約1割を占める外国人旅行者が、よりスムーズにお買物ができればとの考えで各フロアのエスカレーター付近など計10カ所に設置されています。



外国語表記フロア案内パネル

■ おもてなし規格認証取得

(株)三交イン

(株)三交インは、2016年3月より国内サービス産業事業者のサービス品質を「見える化」するため経済産業省が創設した「おもてなし規格認証2019」の紅認証に全ホテルを登録しています。



おもてなし規格認証マーク

■ おもてなしの心でお客様に感動していただく接客を提供

三重県観光開発(株)

三重県観光開発(株)は「PERFECTサービス」の追求をコンセプトに、常にお客様の立場に立ち、お客様に感動を与えるサービスの提供を心がけています。外部調査によると顧客満足調査において、パーキングエリア全ての店舗でA評価以上となり、お客様からも多くのお褒めの言葉をいただいております。



伊勢自動車道 嬉野PA(下り線)での接客の様子

■ 産業観光バスツアーの実施

名阪近鉄旅行(株)

名阪近鉄旅行(株)は、地元中部圏における企業や産業の魅力や歴史を楽しく学べる「産業観光バスツアー」を実施しています。ツアーでは、生活を支える「ものづくり」の重要性を啓発したり、文化的側面からの産業振興等社会的意義のある見学先を取り入れ、年間700名以上が参加しています。



産業観光バスツアー

■ 「バスの日」利用促進イベント実施

三重交通(株)

名阪近鉄バス(株)

三交伊勢志摩交通(株)

三重急行自動車(株)

八風バス(株)

三重交通グループバス会社では、毎年9月20日の「バスの日」を記念してバスの利用促進PR活動を行っています。2018年は各バス会社が三重県内の主要駅(津駅、四日市駅など)や、名古屋駅、大垣駅周辺で日本バス協会のキャラクターがあらわれたグッズの配布を行う等、バスの利用促進を呼び掛けました。



バスの日PR活動(津駅前)



■ ホームページで情報開示

三重交通グループホールディングス(株)

三重交通グループでは、法令などにに基づき必要な情報を適時開示しています。三重交通グループホールディングス(株)のホームページでは、IR情報や決算短信、有価証券報告書等をより一層詳しく迅速に公開するよう努めています。

また、グループの最新ニュースもホームページ内で紹介し、英語版のサイトでは、外国人投資家の方々へも分かりやすく情報を公開しています。



三重交通グループホールディングス(株)ホームページ/日本語サイト

■ ビジネスレポートの発行

三重交通グループホールディングス(株)

三重交通グループホールディングス(株)は、事業報告等をまとめた冊子「ビジネスレポート」を年2回発行し、株主様にお送りしたり、ホームページにて公開しています。



ビジネスレポート

■ 株主総会

三重交通グループホールディングス(株)

毎年多数の株主の皆様にご出席いただき、1年間の事業内容を映像やナレーションを用いて分かりやすく説明しています。2019年度は6月14日に津市センターパレスホールで開催し、166名の株主様にご出席いただきました。(2018年度実績:6月21日同場所にて開催、株主188名出席)

■ 個人投資家との対話

三重交通グループホールディングス(株)

三重交通グループホールディングス(株)は、IR活動の一環として名証IRエキスポに企業ブースを出展しています。2019年は7月19日～20日の2日間名古屋市吹上ホールにて開催され、当社が行ったミニ説明会では毎回賑わいをみせました。(2018年は7月20日～21日に同場所にて開催)



名証IR エキスポ2019出展



名証IR エキスポ
株主優待コーナー

■ 機関投資家との対話

三重交通グループホールディングス(株)

三重交通グループホールディングス(株)は、2014年度決算より毎年2回、東京にて機関投資家・アナリスト向けに決算説明会を行っています。当社経営者が、決算概要や業績予想、中期経営計画の進捗を説明し質疑応答の時間を設け、投資家との建設的な対話を行っています。2018年度は、第2四半期決算について同年11月29日に、通期決算について2019年5月30日に行いました。また、機関投資家・アナリストとの個別ミーティングを積極的に行っています。



決算説明会の様子

■ 従業員のために



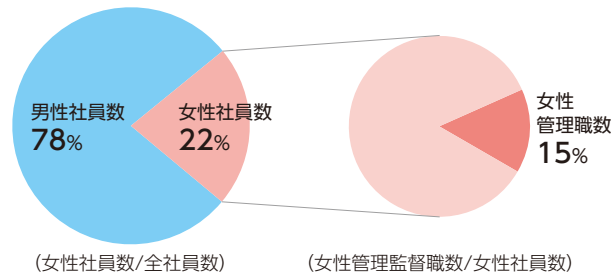
■ 女性活躍推進

三重交通グループ

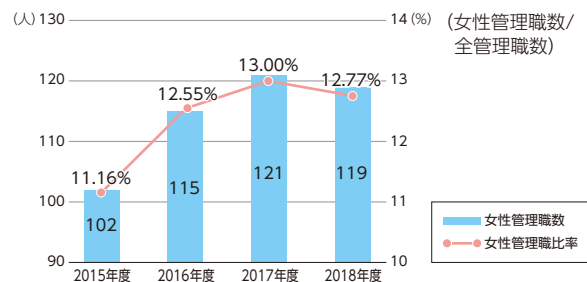
三重交通グループは、業種が幅広く、女性が活躍できる職場が多く存在しており、女性活躍推進法に基づき、各社の実情に合わせ、女性比率の拡大や職場環境の整備等をはじめとした行動計画を2016年4月に策定しています。

バス会社各社では女性バス運転士採用強化のため、女性社員との対談の機会を設けた会社説明会を開催する等、積極的に取り組んでおり、今後も継続していきます。

■ 女性管理監督職割合(2019年3月)



■ 女性管理監督職比率



女性運転体験会

■ 子育て支援

三重交通グループ

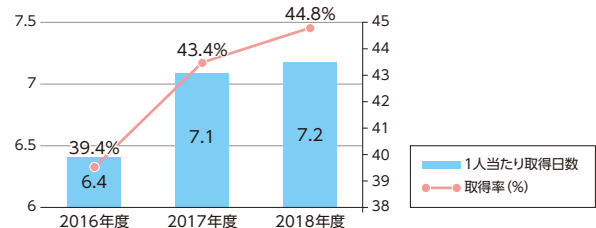
三重交通グループでは、人材の多様化への対応の一つとして、「子育て支援」にも取り組んでいます。具体的には、家族手当の支給額見直し、育児休業制度の改正等を実施しており、男女共に活躍し、いきいきと働ける職場環境づくりに取り組んでいます。この結果、三重交通(株)においては2017年に三重県より「みえの働き方改革推進企業」認証を取得いたしました。

■ 働き方改革

三重交通グループ

三重交通グループでは、社員の心身の健康確保とワークライフバランスを推進し、長時間労働の抑制と年次有給休暇の取得促進に取り組んでいます。各社の実情に合わせ、ノー残業デーや時間単位の年次有給休暇取得、連続休暇の取得促進等を行うことで、労働時間の削減や年次有給休暇の取得率向上を目指しています。

■ 年次有給休暇取得率

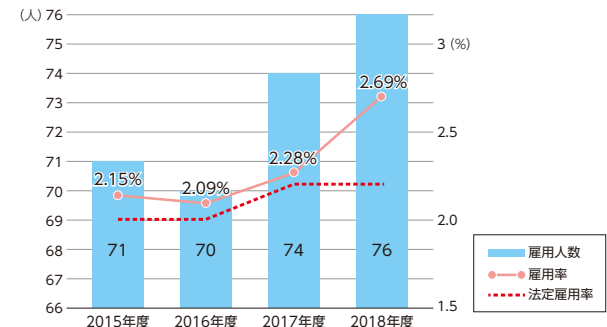


■ 障がい者雇用推進

三重交通グループ

グループ全体(2019年3月末現在)で、76名を雇用し、障がい者雇用率は前年を上回る2.69%であり、2018年度から新たに制定された法定雇用率(2.2%)を上回っております。障がい者はもとより、女性・高齢者・若年者等、多様な人材の一人ひとりがその能力を存分に発揮できるような就労環境を整えつつ、今後も全社を挙げて雇用促進を図っていきます。

■ 障がい者雇用率



■ 人材育成

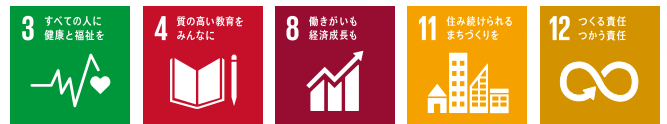
三重交通グループ

入社後、新入社員研修や、階層別、職種別研修などの各種研修のほか、資格取得支援制度や自己啓発通信教育制度の導入など、積極的に人材育成に取り組んでいます。また、社内では得ることのできない知識やノウハウの習得のため、多くの若手社員がグループ会社や、県などの社外機関への出向を経験しています。この経験が、柔軟で、情報力と行動力ある人材の育成に大きな効果を上げています。



新入社員フォローアップ研修

■ 地域のために



■ ワークライフバランスの推進

三重交通(株)

三重交通(株)では、「夏の生活スタイル変革」として、夏期の柔軟な出退勤を可能にする「ゆう活」を2018年7・8月より実施しています。今後も、各人の生活スタイルに応じた働き方改革の推進を図ることで、時間外労働の削減・仕事とプライベートの両立ができる職場づくりに取り組んでいきます。

■ 外国人労働者の雇用促進

三重交通グループ

当社グループでは、現在グループ会社9社において技能実習生、また、正社員・派遣受入れといった形で外国人労働者が在籍しております。

労働人口が減少し続けるなか、2019年4月に出入国管理法が改正され、外国人労働者の受入れは人手不足を解消する手段の一つとして、今まで以上に注目されております。当社グループにおきましても各社において状況に合った受入れ体制を検討し、取り組んでいます。



三交コミュニティ・技能実習生入社式

■ 愛知県ファミリー・フレンドリー企業

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、社員のワーク・ライフ・バランスに取り組む企業として、2016年から「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」に登録されています。仕事と生活の両立ができるよう制度の整備や研修等を行っています。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録証



■ 従業員の資格取得をサポート

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールは、従業員の資格取得のサポートとして、様々な車種の運転免許取得のために車両及びコースの貸し出しや、既得免許者を指導に充てる等、取得の支援をしています。また、免許取得後は当該車種の教習指導員資格、技能検定員資格の取得も併せて免許取得時同様に支援をしています。

■ 熊野市観光協会とインバウンド誘致共同企画

三重交通グループホールディングス(株)

三重交通グループは熊野市観光協会とインバウンド誘致の共同企画を行いました。グループの御在所ロープウェイをはじめ伊勢神宮や熊野古道などをまわるツアープランを企画し、中国や台湾をはじめとする各国の旅行会社を訪問して両者が協同でプロモーションを行い、誘致活動に取り組めます。

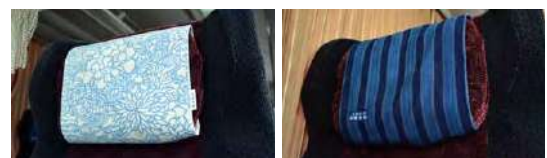


インバウンド誘致共同企画発表の様子

■ 松阪もめん・伊勢木綿の高速バスヘッドカバーを試行採用

三重交通(株)

三重交通(株)は、2018年4月24日から夜行高速バス「高速鳥羽大宮線」に三重県の伝統産業である「松阪もめん」「伊勢木綿」の座席ヘッドカバーの試行採用を開始しました。「三重県戦略産業雇用創造プロジェクト」が主催する「もめん技術研究会」が自動車内装品向けに「松阪もめん」と「伊勢木綿」の耐久性や抗菌性を高める加工技術を開発したことから、試行採用することになりました。より多くの方に三重県特産の「松阪もめん」「伊勢木綿」の良さを知っていたき、伝統産業活性化の一助となることを期待しています。



伊勢木綿ヘッドカバー

松阪もめんヘッドカバー

■ バスの乗り方教室を開催

三重交通(株)

三重交通(株)は、園児、小学生とその保護者を対象に、バスの乗り方教室(行先表示の見方、バス乗降の仕方や車いすの乗車体験など)を随時開催しています。その他、運転士の点呼風景の見学、洗車体験の実施、整備工場の見学など、普段体験できないバスとのつながりを体験していただいています。また、高齢者を対象にした教室も随時開催しており、バスに安全に乗っていただく為の適切な利用方法を、体験を交えながら学んでいただき、バスの利用促進に努めています。



バスの乗り方教室の様子

■ 地域のために

■ バスの乗降介助訓練を実施

三重交通(株)

三重交通(株)は2018年11月28日、公益財団法人介護労働安全センターと協力し三重交通中勢営業所にて、乗降介助訓練を実施しました。視覚障がい者が外出する際に同行して支援するための一般的な知識及び技術を習得することを目的とした社員研修の一環として行われました。



乗降介助訓練

■ バスのセミナーを開催

三重交通(株)

三重交通(株)は2018年9月、三重県生涯学習センターとのジョイント企画「あなたの知らないバスの世界～昔も、今も、これからも～」と題したセミナーを三重県総合文化センターにて開催しました。セミナーでは、三重交通の歴史やバスの利便性向上、環境への取組みを紹介し、約90名の参加者へ、バスの認識を深めていただきました。



ジョイントセミナーの様子

■ バスマつり、鉄道まつりに出展

三重交通(株)

三重交通(株)は2019年6月、京都市の岡崎公園で開催された「第19回スルッとKANSAIバスマつり」に参加しました。このイベントは、スルッとKANSAI協議会連盟のバス事業者が集まるもので、当社は2回目の参加。ブースでは、バス車両の展示やバス部品・オリジナルグッズの販売を行い、バスを身近に感じていただきました。

また、毎年11月には近鉄塩浜駅で開催される「きんてつ鉄道まつり」にも参加しています。



「きんてつ鉄道まつり」の様子 「スルッとKANSAIバスマつり」の様子

■ 各種イベントへの参加

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、大垣市の元気ハツラツ市・のりものフェアや、おおがき未来フェスタ、ロボカップジャパンオープン2018、本巣市でのバスフェスタなど、岐阜県内のイベントに積極的に参加し、バス車両の展示や乗車体験、乗り方教室、子どもなりきり運転手等、バスに対する親近感と理解を深める体験型イベントを行っています。



おおがき未来フェスタ

■ 太陽の街「ガスお客様感謝祭」開催

三重交通商事(株)

三重交通商事(株)の液化ガス事業部門では、毎年、春(6月頃)と秋(11月頃)に鈴鹿市の太陽の街団地内において、日頃のご利用を感謝して、イベントを開催しています。来場記念品を来場者全員に進呈したり、ビンゴゲーム大会を楽しんでもらったりと、お客様とのコミュニケーションを深めています。



ガスお客様感謝祭

■ 大垣市市制100周年記念 ラッピングバス運行

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、2018年度の1年間大垣市の市制100周年を記念したラッピングバスを運行しました。100周年記念事業の1つとして企画され、2018年3月4日に大垣市元気ハツラツ市で行われた除幕式では多くの市民や観光客にお披露目されました。大垣市内を中心に西濃地域を運行し、節目の年をお祝いするとともに広くPRしました。



大垣市制100周年記念ラッピングバス

■ 鈴鹿サーキット 「働くクルマ大集合!!」へ出展

三重いすゞ自動車(株)

三重いすゞ自動車(株)は、2019年4月29日～5月6日の8日間、鈴鹿サーキットにおいて開催された「働くクルマ大集合!!」に今年も出展しました。ボンネットバスや観光バスなど計6台の車両を出展し、恒例の乗車体験も大変好評でした。また、4日には国際レーシングコースを展示車両で走行するイベントも実施され、2台が出走し華を添えました。



「働くクルマ大集合!!」会場風景

■ 四日市工業高等学校へ寄贈

三重いすゞ自動車(株)

三重いすゞ自動車(株)は、2018年10月23日に三重県立四日市工業高等学校へ大型トラックGIGAをいすゞ自動車(株)と寄贈しました。

大型車両の構造などを学んでもらうための教材として、より多くの生徒さんに興味を持ってもらえることを期待しています。



大型トラックを寄贈

■ 学生インターンシップ受入れ

三重交通グループ

三重交通グループではインターンシップ受入れを積極的に行っています。

三重交通(株)は、熊野花火ツアーの現場運営など身近に仕事を感じられる内容を取り入れ、夏・冬休みを利用した学生の受入れを行っています。



熊野花火ツアー インターンシップの様子

鳥羽シーサイドホテル(株)は、例年夏休みを利用した学生インターンシップを受け入れています。本年は、県内外の大学生4名、外国人留学生2名、短大生3名がフロントベル係(お客様のお出迎えや客室までのご案内)、調理専門学校生2名が、調理係として約10日間実際に現場に入り、研修を行いました。就職先を考える貴重な機会として、今後も実施していきたいと考えています。



インターンシップの様子

三交興業(株)が運営する名阪関ドライブイン・名阪上野ドライブインでは、2018年度も地元中学校、高校から生徒を受入れ現場実習を実施し、生徒は弁当の盛り付け、スタッフの補助など軽作業や接客を体験しました。



インターンシップの様子

〈その他2018年度受入れを行った会社〉

三交不動産(株)、三重いすゞ自動車(株)、御在所ロープウェイ(株)、三重県観光開発(株)

■ 地域のために

■ 中学生の職場体験受入れ

(株)三重交通商事(株)

三重交通商事(株)では、地域の中学校の生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、実際の職業や仕事について体験したり、働く人々と接したりする学習活動に協力しています。

毎年桑名・津・尾鷲地区にて実施し、2019年9月は5名の受入れを行いました。

■ わくわくワーク職場体験学習

(株)松阪カントリークラブ

(株)松阪カントリークラブでは、毎年6月、地域貢献の一環として、職場体験学習「わくわくワーク」への体験活動の場を提供しています。職場体験学習「わくわくワーク」は、地元中学生が日常の学校生活を離れ、地域に出て様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを高めることを目的とした学習の場となっています。



わくわくワーク職場体験学習の様子

■ 地元高校開発商品の販売会に協力

三交興業(株)

名阪関ドライブインでは、2019年4月、美容師を目指すあけぼの学園高校のビューティクリエイト部が開発した全身用美容ジェル「peonin(ピアニン)」の販売会を開催しました。生徒たちは来店されたお客様に積極的にお声掛けし、販売を行いました。この美容ジェルは、地域創生推進事業として伊賀市と同高が連携した「IGABITO育成プロジェクト」の成果の一つで、今後もこのような地域活性化に繋がる活動に協力していきます。



地元高校生開発商品の販売会

■ 地域貢献活動の実施

三重いすゞ自動車(株)

三重いすゞ自動車(株)は、地域貢献活動の一環として、近隣小学校の「交通安全見守り活動」を実施しました。各学校の通学路に社員が立ち、横断歩道などで学童の安全を確保し、地域の方と協力し、交通安全の啓発に取り組みました。

■ 学生・高齢者向け交通安全講習

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールでは、地域の高校に当校指導員を出張派遣して、通学時などの事故防止を目的とした安全な自転車の乗り方・危険予測についての交通安全、高校近隣の事故統計、交差点における効果的な確認方法等の講義を実施しています。講義では実際にあった自転車事故の再現ドラマも鑑賞し、事故の悲惨さを訴えています。

また、四日市自動車学校では、県主催のもと、地域の高齢者の代表者(シルバーリーダー)を対象に、効果的な指導方法と題し、当校指導員による身体機能の自覚や、高齢者事故の防止方法などの講話を行い、実習として安全な歩行と横断方法の実演及び指導を実施しています。



自転車乗り方教室の様子

■ 交通安全の街頭指導と呼びかけ

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールは、年間4回実施されている交通安全運動の各運動期間中に様々な取り組みを行っています。近隣主要道で交通安全啓発物品やチラシを配布し、交通安全を呼びかける街頭指導を実施するとともに、「交通安全運動実施中」の標を掛け、「横断中」の旗を持ち、横断者の安全確保、保護に努めています。

また、学校敷地のフェンスや校舎内等に幟や布看板を設置し、社員や教習生、地域の方々に交通安全の啓発活動を実施しています。



交通安全街頭指導の様子



交通安全啓発

■ 地域小学生の社会見学の受入れ

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールでは、小中学校に対して、社会見学や職場体験学習の受入れを毎年実施しており、交通安全教育に協力しています。



小学校社会見学の様子

■ 四日市南交通安全対策・フレッシュドライバーズコンテスト実施

(株)三交ドライビングスクール

四日市自動車学校では、地元の関係団体が主催し、2年に1回実施される「フレッシュドライバーズコンテスト」に協力しています。地元企業の社員を対象に教習コース内で規定競技会を行うとともに、座学では交通ルールや交通マナーについて学んでもらい、交通安全への意識を高めていただいています。



フレッシュドライバーズコンテストの様子

■ RUN伴 2018 三重へ参加

三交ウェルフェア(株)

三交ウェルフェア(株)は、2018年10月に開催された認知症の啓発イベント、「RUN伴 2018 三重」(桑名コース)にサービス付き高齢者向け住宅「ウェルフェア桑名」の入居者5名とスタッフ3名が参加しました。イベントでは、ウェルフェア桑名は中継地点となり、たくさん入居者が迎えに来て声援を送るなど地域の皆さんとも啓発活動に協力しました。



「RUN伴 2018 三重」

■ スポーツを通じて地域振興「ヴィアティン三重」

三交不動産(株)

三交不動産(株)は「ヴィアティン三重バレーボールチーム」とスポンサー契約を結んでいます。2018年11月には同チームの協力のもと、小学生を対象としたバレーボール教室「第1回三交不動産バレーボールアカデミー」をサオリナ(三重県津市)にて開催しました。実際にVリーグの公式戦コートを利用して、ヴィアティン三重の選手と子供たちとのミニゲーム体験を行うなど、県内のスポーツ振興につながる活動に取り組んでいます。



バレーボールアカデミー

■ 「三交ホーム杯 第23回U-10フットサル三重県大会」に特別協賛

三交不動産(株)

三交不動産(株)は、一般社団法人三重サッカー協会主催の「三交ホーム杯 第23回U-10フットサル三重県大会」(2月)に特別協賛しており、「三交ホーム杯」となって15回目を迎えたこの大会には、対象となる県内の小学4年生以下から38チームが参加し、白熱したプレーが繰り広げられました。スポーツを通じた地域の皆様とのつながりを大切にしています。



三交ホーム杯

■ 地域美化活動の実施

名阪近鉄バス(株)

名阪近鉄バス(株)は、大垣駅前にて年3回の清掃活動、またNPO法人「水都まちづくり」を中心とした実行委員会による「水門川クリーン作戦」に参加し、大垣市内の企業や団体、市民の皆さんとともに市内を流れる水門川を清掃するなど、地域の美化活動を行っています。



「水門川クリーン作戦」に毎年参加

三重交通商事(株)

三重交通商事(株)は、2019年10月27日に、コスモ石油と全国FM放送協議会加盟局が「アースコンシャス〜地球を愛し、感じるこころ」をテーマに主催する、「コスモアースコンシャスアクト・グリーンキャンペーンin国府の浜」に参加し、自然と親しみながら清掃活動を行いました。



国府の浜で清掃活動(前年写真)

(株)三交ドライビングスクール

(株)三交ドライビングスクールは、日頃お世話になっている周辺地域のクリーン活動(道路の除草やゴミ拾い)に努めています。



自動車学校周辺の道路の清掃活動実施

名阪近鉄旅行(株)

名阪近鉄旅行(株)は、観光バスが多く発着するJR名古屋駅太閤通口前の道路及びその周辺にて、3ヵ月に1回清掃活動を行い環境美化に努めています。



JR名古屋太閤口前の清掃活動

Mie Kotsu Group

 三重交通グループホールディングス

三重交通グループホールディングス株式会社
〒514-0032
三重県津市中央1番1号
TEL.059-213-0351
<http://holdings.sanco.co.jp/>

2019.11